



SEEDS^{OF} SCU

Research Seeds Collection

下関市立大学研究シーズ集 2024

●所属

●専門分野

経済学部

5	杉浦 勝章	スギウラ カツアキ	経済学科	経済地理学・地域政策論・産業立地論
6	菅 正史	スガ マサシ	公共マネジメント学科	都市/地域計画・都市環境政策
7	足立 俊輔	アダチ シュンスケ	公共マネジメント学科	原価計算・マネジメント
8	岸本 充弘	キシモト ミツヒロ	公共マネジメント学科	捕鯨産業史/文化史・水産経済学・未利用部位の有効活用
9	小柳 真二	コヤナギ シンジ	経済学科	経済地理学
10	佐藤 佑一	サトウ ユウイチ	経済学科	環境経済学・理論経済学
11	猿渡 剛	サルワタリ ツヨシ	国際商学科	地域経済統合・自由貿易協定
12	鈴木 俊光	スズキ トシミツ	国際商学科	労働経済学・仕事と子育ての両立促進・地域の少子化/人口減少対策
13	砂原 雅夫	スナハラ マサオ	公共マネジメント学科	地方行財政・公共マネジメント・鉄道史
14	竹内 裕二	タケウチ ユウジ	経済学科	地域経営学・まちづくり論・住民参加論・社会システム学
15	田尻 敬昌	タジリ タカマサ	国際商学科	管理会計・原価計算
16	鶴沢 真	ツルサワ マコト	国際商学科	コーポレートファイナンス・銀行システム・決済システム
17	西田 郁子	ニシダ イクコ	国際商学科	ビジネスシステム・流通システム
18	野津 隆臣	ノツ タカオミ	経済学科	ミクロ経済学・ゲーム理論・産業組織論
19	日高 卓朗	ヒダカ タクロー	国際商学科	アメリカ経済史・経営史・環境史
20	平山 也寸志	ヒラヤマ ヤスシ	国際商学科	民法
21	藤井 崇	フジイ タカシ	経済学科	日本中世史・日本経済史・中世後期の地域権力の研究(長門探題・大内家・厚東家の研究等)
22	村田 和博	ムラタ カズヒロ	国際商学科	経営学史・経済学史
23	柳 純	ヤナギ ジュン	国際商学科	マーケティング論・国際マーケティング論・小売経営論
24	劉 澤文	リュウ タクブン	国際商学科	開発途上国・東南アジア・カンボジア農業

データサイエンス学部

26	松本 義之	マツモト ヨシユキ	データサイエンス学科	テキストマイニング・自然言語処理・SNSマーケティング
27	近藤 宏樹	コンドウ ヒロキ	データサイエンス学科	確率論・保険数理・数学教育
28	酒井 浩	サカイ ヒロシ	データサイエンス学科	ラフ集合データ解析・応用数学
29	徐 明	ジョ メイ	データサイエンス学科	ライフサイエンス
30	白濱 成希	シラハマ ナルキ	データサイエンス学科	感性情報学・感性計測評価・主観情報処理・ソフトコンピューティング
31	田中 信彦	タナカ ノブヒコ	データサイエンス学科	バイオインフォマティクス・データサイエンス
32	中岡 伊織	ナカオカ イオリ	データサイエンス学科	経営情報・経営システム
33	中上 裕有樹	ナカガミ ユウキ	データサイエンス学科	統計学・データサイエンス・ヘルスデータサイエンス・生物統計学・消化器がん・統計的コンサルティング
34	坂幸 幸浩	バンドウ ユキヒロ	データサイエンス学科	ビッグデータモデリング・知能情報処理
35	福田 龍樹	フクダ タツキ	データサイエンス学科	シミュレーション
36	松浦 健二	マツウラ ケンジ	データサイエンス学科	薬理学・データサイエンス
37	藪内 賢之	ヤブウチ ヨシユキ	データサイエンス学科	多変量解析・ソフトコンピューティング・技術経営
38	山根 智	ヤマネ サトシ	データサイエンス学科	情報科学(人工知能・ソフトウェア科学)
39	和多田 淳三	ワタダ ジュンゾウ	データサイエンス学科	ファジイ集合理論・金融工学・経営工学・メタヒュリスティックモデル・映像解析・深層学習ニューラルネットワーク・人工知能

看護学部

(2025年4月開設)

41	中嶋 恵美子	ナカシマ エミコ	看護学科	看護学(基礎看護学・看護学教育・看護倫理)
42	石村 美由紀	イシムラ ミユキ	看護学科	看護学(母性看護学・生涯発達看護・生殖看護)・助産学
43	大谷 良子	オオタニ ヨシコ	看護学科	母性看護学・生殖看護
44	佐藤 亜紀	サトウ アキ	看護学科	急性期看護・ICT教育・発達障害傾向の看護学生への支援
45	塚原 ひとみ	ツカハラ ヒトミ	看護学科	看護学(看護管理学・看護学教育・母性看護学)
46	濱田 裕子	ハマダ ユウコ	看護学科	小児看護学・家族看護学
47	古庄 夏香	フルショウ ナツカ	看護学科	基礎看護学・看護技術・透析看護

教養教職機構

49	上野 恵美	ウエノ メグミ	教養教職機構	キャリア教育(若年層のキャリア形成)・インターンシップ
50	太田 麻美子	オオタ マミコ	教養教職機構	教育経済・金融教育・乳幼児教育
51	加藤 秀男	カトウ ヒデオ	教養教職機構	ヘルス&ソーシャルケア(心理学分野)・英語教授法
52	金 珉智	キム ミンジ	教養教職機構	社会医学・特別支援教育・医学統計学・リハビリテーション医学
53	趙 彩尹	ジョ チュエン	教養教職機構	教育経済学・医療経済学・障害科学・リハビリテーション医学

URA室

54	URA室			
----	------	--	--	--

地域イノベーションを起こす種としての産官学のクラスター形成、 その中核拠点になり、蓄える種に花開くチャンス을ください!



Han, Chang-wan

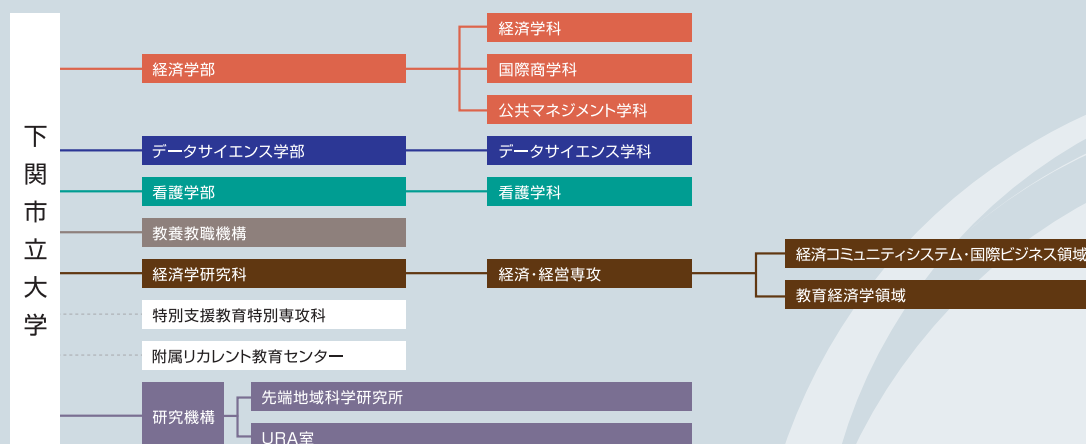
下関市立大学 学長
韓 昌完
(ハン チャンワン)

このたび、下関市立大学の研究活動を地域や世界に広く知ってもらうことで、共同研究の強化や促進、研究成果の還元による地域の活性化などに繋がることを期待して『研究シーズ集』を発刊いたします。研究シーズとは、将来実を結ぶ可能性を秘めた種のことです。本学にもたくさんの種が埋まっており、これからもどんどん生まれてくるでしょう。その中には、芽吹きを必要としている種もあります。

世界的に、イノベーションには産官学のクラスター形成が重要だとされています。特に、大学が地域産業クラスターの中核拠点としての役割を果たし、地域の大学と企業がタッグを組んで商品開発やマーケティング、DXなどを推進することが地域の発展に大きく関わっているようです。本学は2025年度の春、経済学部とデータサイエンス学部、看護学部を備えた総合大学として新たなスタートを切ります。すでに続々と優秀な研究者が集結してきており、より積極的な地域企業と人材のマッチアップを推進していける体制が整ってまいりました。この『研究シーズ集』が地域に根ざしていくことで、企業との共同研究によって画期的な商品やシステムが実用化に至ったり、さらなる地域課題の発掘により新たな研究シーズが生まれたりといった動きが活発なることを目指しております。ぜひ、地域企業が持つ技術やノウハウ、事業力などを活かしたさらなる発展のために、私たちが蓄える種に花開くチャンス을ください。

創刊号はまだ未熟ですが、今後の活動による成功事例や「もっとこんなことが知りたい」などの声を取り入れながら育ててまいりますので、ぜひ、多くの皆さまの応援とご協力をいただけますと幸いです。

組 織 図



経済学を通して社会を見る

Faculty of Economics

経済学部

経済学科
国際商学科
公共マネジメント学科

20
SEEDS

ページ		所属	専門分野
5	杉浦 勝章	スギウラ カツアキ 経済学科	経済地理学・地域政策論・産業立地論
6	菅 正史	スガ マサシ 公共マネジメント学科	都市/地域計画・都市環境政策
7	足立 俊輔	アダチ シュンスケ 公共マネジメント学科	原価計算・マネジメント
8	岸本 充弘	キシモト ミツヒロ 公共マネジメント学科	捕鯨産業史/文化史・水産経済学・未利用部位の有効活用
9	小柳 真二	コヤナギ シンジ 経済学科	経済地理学
10	佐藤 佑一	サトウ ユウイチ 経済学科	環境経済学・理論経済学
11	猿渡 剛	サルワタリ ツヨシ 国際商学科	地域経済統合・自由貿易協定
12	鈴木 俊光	スズキ トシミツ 国際商学科	労働経済学・仕事と子育ての両立促進・地域の少子化/人口減少対策
13	砂原 雅夫	スナハラ マサオ 公共マネジメント学科	地方行財政・公共マネジメント・鉄道史
14	竹内 裕二	タケウチ ユウジ 経済学科	地域経営学・まちづくり論・住民参加論・社会システム学
15	田尻 敬昌	タジリ タカマサ 国際商学科	管理会計・原価計算
16	鶴沢 真	ツルサワ マコト 国際商学科	コーポレートファイナンス・銀行システム・決済システム
17	西田 郁子	ニシダ イクコ 国際商学科	ビジネスシステム・流通システム
18	野津 隆臣	ノツ タカオミ 経済学科	ミクロ経済学・ゲーム理論・産業組織論
19	日高 卓朗	ヒダカ タクロウ 国際商学科	アメリカ経済史・経営史・環境史
20	平山 也寸志	ヒラヤマ ヤスシ 国際商学科	民法
21	藤井 崇	フジイ タカシ 経済学科	日本中世史・日本経済史・中世後期の地域権力の研究(長門探題・大内家・厚東家の研究等)
22	村田 和博	ムラタ カズヒロ 国際商学科	経営学史・経済学史
23	柳 純	ヤナギ ジュン 国際商学科	マーケティング論・国際マーケティング論・小売経営論
24	劉 澤文	リュウ タクブン 国際商学科	開発途上国・東南アジア・カンボジア農業

産業構造が地域経済にどんな影響を与えるのか、人口減少が与える地域経済への影響と、有効な対策。

経済学部 経済学科・大学院経済学研究科

杉浦 勝章 教授 副学長(研究)・URA室長
SUGIURA Katsuaki
博士(経済学)



キーワード

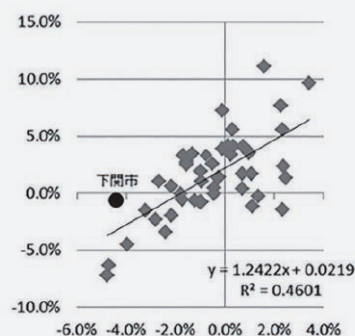
産業立地 # 産業政策 # 産業再編 # 地域政策 # 地域構造

研究の概要

産業政策・地域政策や企業戦略が、産業や企業の立地をどのように決めるかというメカニズムとともに、立地の変化が地域経済にどのような影響を与えるかについて研究しています。

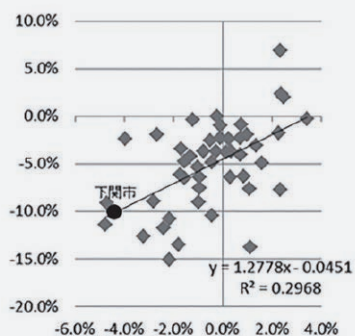
最近は特に、産業構造の多様性が地域経済のレジリエンス(強靱性・回復力)にどの程度影響を与えるのか、人口減少がもたらす地域経済への影響とそれに対する有効な対策はどのようなものか、といったところに関心を持っています。

図7 中核市の人口増減率(横軸)と教育・学習支援業の就業者数増減率(縦軸)



注) 増減率は2010年から2015年へのもの。

図8 中核市の人口増減率(横軸)と運輸業・郵便業の就業者数増減率(縦軸)



注) 増減率は2010年から2015年へのもの。

地域連携について

- 人口減少対策としての政策の有効性についての研究。
- 人口減少の影響を最小限にするような都市構造についての研究。
- 人口減少下における公共交通のあり方についての研究。
- 製造業の立地要因についての研究。
- 産業政策・立地政策の効果分析についての研究。

提供できる知識やスキル

- 将来人口推計
- 経済波及効果の推計
- 産業立地分析
- 政策効果分析

研究実績・講演テーマ

- 「石油精製業を取り巻く環境変化と産業再編」(『下関市立大学論集』第63巻 第2号、2019年)
- 『地域政策(第2版)』中央経済社、2023年(共著)
- 「北九州・福岡大都市圏」(小田宏信編『日本経済地理読本(第10版)』、東洋経済新報社、2024年)



市民・企業・行政・団体などと協力し、 「都市」の生活環境をより良いものに。

経済学部 公共マネジメント学科・大学院経済学研究科

菅 正史 教授 副学長(教育)・経済学部長
SUGA Masashi
博士(工学)



キーワード

国土計画 # 都市・地域計画 # 都市環境政策 # 人口減少 # 地域格差

研究の概要

人口減少や環境負荷の低減、地域間格差といった都市が抱える課題について、現状・要因の定量・定性的な分析や、それに対応するための政策的介入のあり方に関する研究を行っています。近年は、日本の国土政策に関する研究を行っています。特に中長期的な人口減少への政策的対応のあり方の考察に向け、戦後日本の国土政策の理論・制度につながった社会・経済的背景や、現行の国土政策である国土形成計画・広域地方計画制度等に関する研究を行っています。

地域連携について

地域の諸課題に関心のある市民・企業・行政・団体などと協力し、人間の生活環境、とりわけ多くの人々が生活・経済活動を営んでいる「都市」の生活を、より良いものに変えていく手伝いができればと考えています。

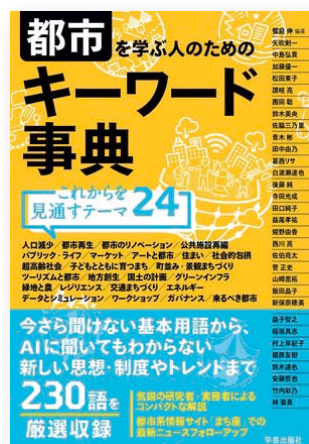
- 環境負荷の低減や、防災・減災への対応、市街地の整備・再編、人口減少への適応などの都市問題への対応
- 地区の景観・まちなみや、歴史・文化資源などの生活空間の魅力や、生活環境面での課題等の把握・可視化・共有化

提供できる知識やスキル

- 都市問題・都市環境問題の経済的・法制度的側面からみた課題の分析・考察
- 土地利用や居住環境・人の移動といった都市の現状や変化に関する定量的・定性的な分析・評価や、一定の仮定の下での将来変化のシミュレーション
- 生活環境や政策等への人々の認識や、行動パターン・将来意向等に関する社会調査の実施
- 地域課題の解決やまちの維持管理などの地域主体のまちづくりを推進したい住民・団体等を対象とするまちづくり・ワークショップ等の支援

研究実績・講演テーマ

- 菅正史, "国土の計画". 都市を学ぶ人のためのキーワード事典: これからの見通すテーマ24. 饗庭伸編著. 学芸出版社, pp.174-185, 2023.
- Kokura, M., Suga, M., Lee, B., Shirakawa, K., Suwa, T. and Ohmori, N., Safety and Enjoyability Evaluation of Roads and Streets for Bicycles: Case Studies of Bicycle Maps from Utsunomiya and Chigasaki, Japan, Journal of Maps, v2010, pp.199-210. 10.4113/jom.2010.1076., 2010.5, (共著)
- 菅正史, 自治体の政権交代と都市政策の継続性に関する考察—末吉・北橋市長時代の北九州市の都市環境政策を通じて—, 都市計画61(6), pp.64-71, 2012.12



病院に限らず、民間企業でも導入可能。 病院バランスト・スコアカード(BSC)の研究。

経済学部 公共マネジメント学科・大学院経済学研究科

足立 俊輔 教授
ADACHI Shunsuke
博士(経済学)



キーワード # 原価計算 # 病院経営 # バランスト・スコアカード

研究の概要

病院原価計算および病院バランスト・スコアカード(BSC)の研究を中心にしています(BSCについては写真を参照)。病院原価計算の研究は、アメリカ病院原価計算の研究を通じて、近年の「医師の働き方改革」の解決策として取り上げられているタスク・シフティング(業務移管)をはじめ、院内の様々な業務プロセスをコスト面から「見える化」する意義を明らかにしようとしています。まだまだ研究途上ですが、当該研究成果として単著を公刊しています。病院BSCの研究成果としては、①日本での病院BSCの特色をまとめ、設立主体、導入実態、および外部専門家の指導が影響を与えている可能性を指摘したり、②病院BSCの戦略マップの多様性に着目して、病院BSCの戦略マップが形成されていく過程で、どのような要因が影響を与えるのかを明らかにしています。

地域連携について

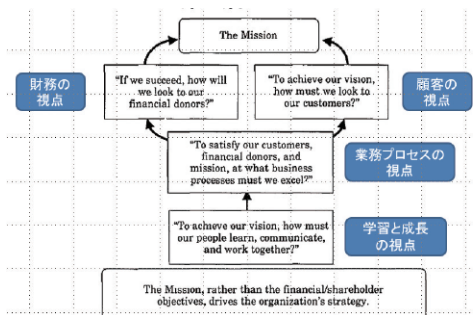
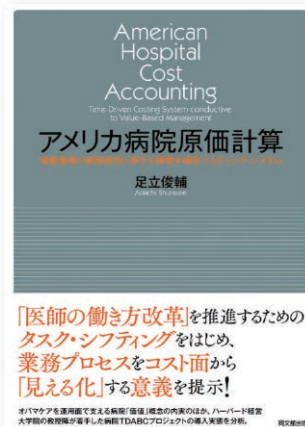
BSC導入病院への調査実績が多少ありますので、病院に限らず、BSC導入を検討している企業に対しても多少アドバイスできると思います。また、病院原価計算はシステム開発にまで至っていませんので、病院原価計算をどのように利用すれば上手いくのか、若しくは、どの指標と併用すれば上手いくのかなどについてはアドバイスできると思います。また、患者数やベッド数などを基準にした間接費の配賦方法など、病院原価計算システムの計算自体に課題を感じている場合もあるかと思いますので、そうした場合には、コメントに留まるかもしれませんが学術的な見地からアドバイス可能です。

提供できる知識やスキル

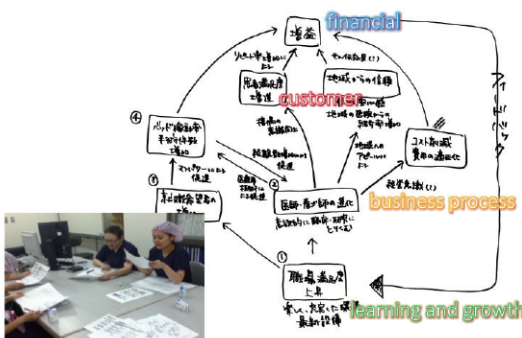
BSCは当初、製造業を対象にした経営ツールですので、病院に限らず、民間企業であっても導入可能です。導入を検討している、若しくは、導入したものの上手く運用できていない場合であればご相談ください。また、病院原価計算も、製造業で考案された原価計算システムを医療現場に当てはめたものです。ゆえに、原価計算システムの計算方法に課題を感じている、若しくは、どこが問題なのかが分からないといった悩みがあれば、業種を問わず多少アドバイスできると思います。

研究実績・講演テーマ

- 足立俊輔『アメリカ病院原価計算』同文館出版、2019年
- 丸田起大・足立俊輔「我が国における病院BSC実務の多様性と形成要因:ケースレビューにもとづく探索的研究」産業経理協会『産業経理』(第75巻1号)33-42頁、2015年
- 足立俊輔「病院原価計算システムにおける間接費配賦の課題と対応」『管理会計学』(第28巻第1号)43-58頁、2022年



(出所) Kaplan and Norton[2001]p. 100



下関の代表的地域資源でもある鯨を、 地域振興や街の賑わいづくりに繋げていきたい。

経済学部 公共マネジメント学科

岸本 充弘 教授

KISHIMOTO Mitsuhiro

博士(学術)



キーワード

#鯨 #捕鯨 #水産経済 #地域資源 #地域振興
#鯨未利用部位有効活用 #下関 #地方行政

研究の概要

鯨肉の流通、価格決定メカニズム、消費拡大、関連産業の振興や、地域資源としての可能性等について、他の水産物との比較・検証を行っています。また、捕鯨を含む水産業に係る1次資料を分析・検証し、将来に向けての水産業や捕鯨の在り方等についても研究しています。加えて、鯨の骨や皮等の廃棄されている未利用部位を有効活用するため、地元企業や県産業技術センター等と、製品化に向けた実証試験を5年前から実施しています。



鯨未利用部位新製品サンプル展示(長崎)



鯨骨肥料を使用した花壇づくり

鯨バーガー



ハロカポイベントでの鯨油キャンドル

地域連携について

下関の代表的地域資源でもある鯨を、どのように地域振興や街の賑わいづくりに繋げることができるのかをテーマに、鯨の流通・加工の在り方や新商品の開発、鯨未利用部位の製品化に向けた実証試験等を通じた関連産業の振興等について連携を模索しています。鯨食文化を幅広く普及させるための新商品開発等を通じて、地元の企業や市民の方と一緒に、その手法等を考えていきたいと考えています。

提供できる知識やスキル

近代以降の捕鯨産業の歴史や、1次資料を通じた捕鯨の実態解明に係る研究を通じた研究成果や知識を提供することができます。また、水産庁、日本鯨類研究所や他大学等の研究者や、日本捕鯨協会、日本小型捕鯨協会等の専門家を紹介することができます。更に、下関地域鯨油高度化利用産官学連携推進協議会で取り組んできた実証試験や事業の成果についての情報提供や、協議会の中で共同研究してきた研究者等の紹介や共同研究を行うこともできます。

研究実績・講演テーマ

- 「鯨油を利用した健康補助食品・養魚飼料の試験製造等」(2019年度実証事業円滑化実証等対策事業(沖合域)・水産庁補助事業)
- 「ニタリクジラの未利用部位及び加工残渣の活用法の検討」(2020年度実証事業円滑化実証等対策事業(沖合域)・水産庁補助事業)
- 「鯨類の未利用部位、加工残渣製品化へ向けての活用法の検討及び鯨体処理コストの検証」(2021年度実証事業円滑化実証等対策事業(沖合域)・水産庁補助事業)

※いずれも下関地域鯨油高度化利用産官学連携推進協議会の研究実績です。

公的なオープンデータの利活用と、行政や企業内に蓄積された業務データ等の利活用。

経済学部 経済学科

小柳 真二 准教授

KOYANAGI Shinji

修士(経済学)



キーワード

産業集積 # 産学連携 # 都市システム # 観光人流分析

研究の概要

地域経済の成長や地域間格差の是正を大きな目標に掲げ、人口動態(特に社会移動)や、産業等の都市機能、都市間関係、研究開発主体間ネットワーク、観光人流など、地域経済に関する研究を幅広くおこなっています。都市間の比較とともに、都市内のミクロな地域分析もおこなっています。

提供できる知識やスキル

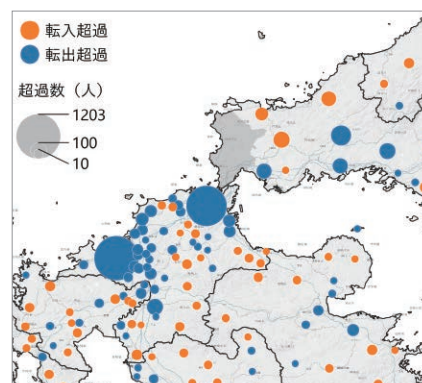
- 地域経済に関する分析視角や知見のご提供
地理学的視点による地域課題や経営課題へのアプローチの視角や、実務(シンクタンク勤務)で培った幅広い経験をもとにした各種手法のご提案。
- 地域統計や人流データの利活用スキルの提供
適切なデータの選定、プログラムにより自動化した収集・整理・統合、ビジネス・インテリジェンス(BI)ツールによる大規模データの可視化・分析、地理情報システム(GIS)を用いた地理空間情報の可視化・分析(エリアマーケティングや観光マーケティング)など。

地域連携について

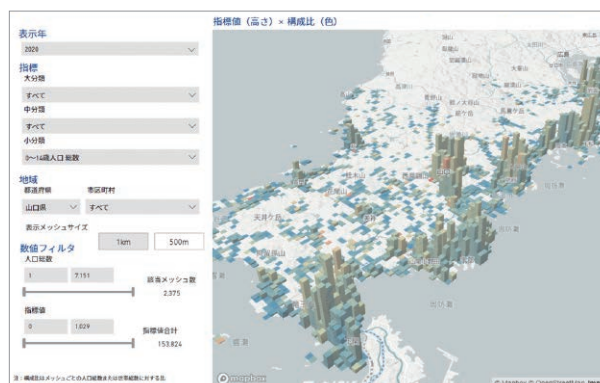
- 課題への地理学的アプローチ
経済・社会など様々な事象の空間的側面に目を向ける地理学の視点から、行政や企業の皆様の課題に対して一緒に取り組んでいきたいと考えています。
- オープンデータと組織内データの掛け合わせによる価値創出
省庁や地方公共団体が公表するオープンデータの利活用と、行政や企業内に蓄積された業務データ等の利活用を同時に進め、さらにそれを掛け合わせることで、課題解決に資する気づきに繋がりたいと考えています。

研究実績・講演テーマ

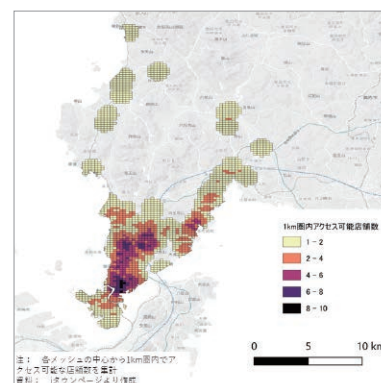
- 「支店経済都市・福岡の変容」、『経済地理学年報』Vol.64, pp.303-318, 2018年12月。
- 「中部圏の定量評価・国際地域間比較分析」、『中部圏研究』, No.223, pp.135-143, 2023年6月。
- データプラットフォーム(ウェブサイト)の開発(DATASALAD、おでかけウォッチャー)



下関市の人口社会移動



メッシュ別年少人口とその変化
(小柳が開発に携った九州経済調査協会「DATASALAD」より)



コンビニエンスストアへのアクセシビリティ



マクロ経済学の動学的最適化モデルを使った環境経済学や森林資源や漁獲資源の問題、地域の雇用・経済について。

経済学部 経済学科

佐藤 佑一 講師

SATO Yuichi

博士(経済学)



キーワード

環境経済(汚染) # マクロ経済 # ミクロ経済(複占・寡占)

研究の概要

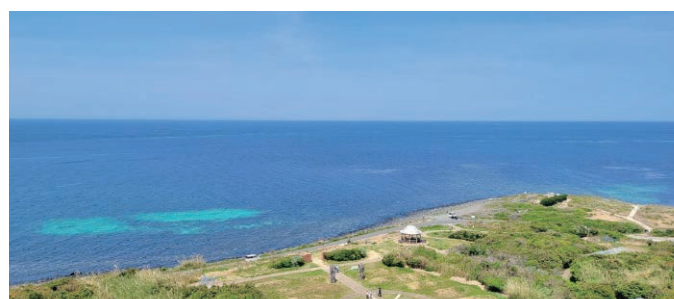
主に理論経済学を用いて、環境経済を分析しています。これまでのテーマは、面源汚染をどうやったら減らせるかについての研究をしています。どこから排出されたか分からない汚染として面源汚染(Non-Point Source Pollution)という汚染があり、その汚染をどう減らすかについて、複占・寡占モデルの枠組みでどのように減らすことができるかを理論モデルにて提唱しています。この理論は、クールノー・ベルトラン混合複占モデルにおいて、面源汚染をどう減らすかということについて、環境課税を行うことによって減らせるというものです。様々な先行研究を踏まえた上で提唱しました。

地域連携について

上の研究テーマはミクロ経済学のモデルですが、マクロ経済学の動学的最適化モデルを使って環境経済学を考える研究も進めることが出来るかと思っています。また、環境経済学のメインテーマとして、森林資源や漁獲資源の問題についても、今後興味・関心を持って、実証分析等も用いて研究を行っていきたいと思います。なお、雇用政策で論文をまとめたことがありますので、地域の雇用・経済についても政策研究をしてみたいと思います。

提供できる知識やスキル

下関の環境(環境汚染、海洋資源、漁獲資源、森林資源)について、様々な研究やワークショップが出来ればありがたいと思います。海山に囲まれた下関において、様々な自然環境について研究や発表の場があれば、大変ありがたく思います。また環境だけでなく、雇用や地域経済の活性化についてもみることができれば貴重な機会かと思っています。



研究実績・講演テーマ

- 面源汚染と環境課税に関する研究(諸論文および学会発表)
- 欧州の雇用政策についての研究
(博士後期課程初期の学会発表)

お互いに進出するASEANと日本の企業の動向や、 人材の地域定着のための体制、グローバル人材の育成・支援。

経済学部 国際商学科・大学院経済学研究科

猿渡 剛 教授 大学院経済学研究科長
SARUWATARI Tsuyoshi
博士(経済学)



キーワード

#地域経済統合 #海外直接投資 #グローバル人材

研究の概要

- (1) 東南アジア諸国連合(ASEAN)域内経済協力・経済統合の中心的役割を担ってきた自由貿易協定(FTA)が加盟各国の経済・貿易にどのような影響を与えたのかについての研究
 - ASEANが諸外国と締結・発効してきた日本、中国、韓国、豪州、ニュージーランド、インドとのFTA、ASEAN加盟国が参画するメガFTAである「環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定(CPTPP)」や「地域的な包括的経済連携協定(RCEP)」における物品・サービス貿易自由化の定量的評価手法の確立と可視化に向けた取り組み
 - ASEANのFTAの根幹に位置するASEAN物品貿易協定とASEANサービス貿易協定、そしてASEAN経済共同体がもたらす、ASEAN域外のメガFTA(CPTPPやRCEP等)における物品・サービス貿易自由化への波及効果についての定性的分析の実施
- (2) 日本の教育機関(大学、日本語学校等)に在籍するグローバル人材候補者としてのASEAN出身外国人を対象とした研究
 - ASEAN出身留学生、教育機関、県や市が主催する業界研究会や就職支援セミナー等を対象としたヒアリング調査から得られる、グローバル人材の採用に至るまでの諸課題の提起
 - 教育機関の国際交流センター、留学生支援センター等へのヒアリング結果に基づく、課題発見・解決能力を備え、チームワークを重視しリーダーシップの資質に溢れ、コミュニケーション能力に富む学生の創発を実現する優れた教育活動の模索

地域連携について

- ASEANから日本に、日本からASEANに進出する企業の動向に関する情報の共有
- 国内外の日本語学校訪問を通じた留学生の採用増、入学前の試験や入学後の各種配布資料に必要な外国語対応、住環境の整備、就職・修学への支援活動等を通じた、グローバル人材の育成・支援
- 外国人だけでなく日本人をも含めた人材育成と、地域定着のための包括的な体制づくりと支援の在り方の模索

提供できる知識やスキル

- (1) ASEAN発の経済・貿易秩序の成立
 - FTAが促進するASEAN加盟国間分業体制の最適化、とくに拠点集約の考察・検証
 - 海外直接投資が促進する、ASEANを含めた強靱なグローバル・サプライチェーンの実現に向けた取り組みの提示
 - 「インド太平洋経済枠組み(IPEF)」をはじめ多くのFTAで盛り込まれるようになった、従来の物品・サービス貿易の自由化だけにとどまらないデジタルインフラの構築、労働者や環境の保護を含めた「現代の通商協定」への進化過程におけるASEANの貢献の明確化
- (2) ASEAN出身外国人の日本での活躍
 - 各種支援組織と連携した上での、各地域の実情に合った実効性のある外国人支援の在り方の検討

研究実績・講演テーマ

- 「ASEANの工業化とFTA—電機産業の事例をもとに」『世界経済評論』62巻2号、pp. 87-98、2018
- 「グローバル人材候補者としての外国人留学生受入れの現状と課題」『北陸AJECウォームトピック』145号、pp. 18-28、2018
- 『国際ビジネス論を学ぶ』(共著)中央経済社、2020



博士(経済学)

#労働経済 #人事労務管理 #少子化 #経済統計

[illegible]

鉄道、道路などの交通史や敷設史、その背景にある日本経済政策史、地方行政史について。

経済学部 公共マネジメント学科

砂原 雅夫 特命教授

SUNAHARA Masao

修士(経済学)



キーワード # 地方行政 # 地方財政 # 県境問題 # 鉄道史

研究の概要

広域交通網は地域経済や都市構造、都市拠点機能に大きな影響を与えますが、特に大規模トンネルや橋梁、幹線道路や鉄道などの交通構造物は供用期間が長期になりその影響は1世紀単位の長期にわたります。関門地域の事例をみると昭和初期に計画され、太平洋戦争を前後して完成した鉄道・国道トンネルも今日次の段階への議論が始まるのが想定される中、地域の都市構造、都市間のあり方についても議論が必要になってくると考えられます。このような背景から1世紀以上に構想され着手が試みられた関門間の鉄道や道路の連絡計画を史的史料に基づき掘り起こし、当時の行政、財界、市民が交通網の変化をどうとらえどう各都市が対応したかを研究しています。

地域連携について

高速道路、新幹線、幹線鉄道のような広域交通網は国土間を効率的に円滑に結ぶネットワーク機能を優先することから個別の地域にとってはメリット、デメリット両方の影響が考えられます。行政はおおむね10年程度の将来をベースに計画を立てていきますが、1世紀単位の次世代を見据えた地域の夢を行政や企業の協力を得ながら子どもたちや若者と考えていきたいと思っています。その際、過去1世紀にわたる変化を探ることはそのヒントを得るという点からも重要であるとの視点に立ち、企業、市民の方々とともに企業や市民のもつ歴史的史料を探索し、これを基に記録、議論を行い、広域交通網の変化が地域に与えた影響をとりまとめます。



明治期の関門連絡3案
「関門隧道」1949年運輸省下関地方施設部発行より



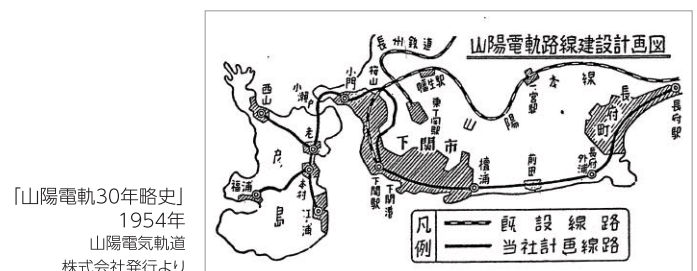
下関市立大学市民公開講座(2023年6月)

提供できる知識やスキル

日本における鉄道、道路などの交通史、とりわけ、幹線鉄道や地方の鉄軌道の敷設史、及びその背景にある日本経済政策史、地方行政史についての知識を提供できます。また、関門地域、福岡地域を中心とした旧版図(地図)を活用し、鉄道や軌道の変遷と都市構造の変化について読み取る方法について提供します。また、鉄道特許申請、工事認可申請、鉄道敷設認可書、工事認可書など、行政通達、許認可文書の読み方を提供するほか、当時の新聞、行政要覧、経済解説書などの読み方を提供します。

研究実績・講演テーマ

- 大正昭和初期の関門地域の地方鉄道・軌道における観光輸送の位置づけに関する一考察
- 関門連絡鉄道計画が下関市の都市構造に与えた影響について



「山陽電軌30年略史」
1954年
山陽電気軌道
株式会社発行より



昭和初期の下関市域及び周辺部の鉄道及び軌道(砂原作成)

地域の人々が安心して生活できる環境を提供するためのコーディネーター役を担いたい。



経済学部 経済学科・大学院経済学研究科

竹内 裕二 教授 先端地域科学研究所長

TAKEUCHI Yuji

博士(学術)・博士(経営学)

キーワード

#まちづくり #地域活性化 #コミュニティ

研究の概要

まちづくり、地域活性化をテーマにNPOの立場に立って社会システム学と地域経営学の両面の分野から地域社会学の観点を取り入れた研究を行っています。現代コミュニティにおいては、このテーマでの研究を行う場合、住民相互のみならず、産官学民の協働活動が不可欠となりつつあります。しかし、現実社会において、市民の認知度は低いのが現状です。そこで、この問題を解決するため、非営利組織による地域経営及び地域活性化に焦点を当て、フィールドワークとアクションリサーチ法を用いた実践研究を行っています。そこから本質的な協働のあり方を導き出す試みを行っています。すなわち、住民が主体となり、産官民が協働し、持続性ある活動を行うための仕組みを探索しています。

地域連携について

地域で発生する課題や問題は、住民だけで解決できるものではありません。ましてや、行政だけで解決できません。さらには、それらの地域課題や問題は、技術的な解決策を用いなければならない時もあります。私は、地域の人々が安心して生活できる環境を提供するためのコーディネーター役を担いたいと考えています。つまり、行政が持つ公の信頼と地域住民しか持ち得ない地域力を最大限に活用するために、私が持つ専門的知識を活かし、地域課題や問題の原因と解決策について処方し、投薬ともいえる地域活動を実施したいのです。その時々で、必要に応じて企業しか持っていない技術力を用いて解決に導きたいのです。私は、住民主体の地域づくりのお手伝いがしたいと考えています。

提供できる知識やスキル

私は、地域でお困りの地域課題や問題についての相談から行い、その内容に応じて解決するために必要な連携・協力してくれる相手探しを行います。さらには、連携先とのマッチングをするだけでなく、連携した者同士が具体的に活動するための仕組みづくりを行います。しかし、ここで問題になるのが、この課題や問題を解決するために持続的に活動する地域住民の所在です。一般的に自治会の一部の人しか参加しないのが通説です。そうならないために地域住民の力量に応じた活動実践までを行うこともできます。この域に到達するためには、地域を統括する自治会と行政のやる気と協力なしにはできません。それだけの気概のある人々に対しては、惜しみなく尽力したいと考えています。

研究実績・講演テーマ

- 「観光まちづくりへの市民関与のあり方に関する一考察 ～市民主体のまちづくりに関するアンケート調査結果を基にして～」、東北亜観光学会(2023)
- 「ボランティア組織による地域課題解決のための継続的活動に可能性に関する一考察 -社会資本におけるボランティア活動と活動範囲の関係について-」、韓国日本近代学会(2023)
- 「地域活動の伝承継承に関する一考察 -愛着に関する先行研究から地域活動の継続性との関係に焦点を当てて-」、韓国日本近代学会(2023)

タスカルカードやバランスト・スコアカードの導入に基づく 就労継続支援事業所の業績評価やマネジメント・コントロール。

経済学部 国際商学科

田尻 敬昌 准教授

TAJIRI Takamasa

修士(経済学)



キーワード

就労継続支援事業所 # enabling control # 組織スラック

研究の概要

障害者が通う「就労継続支援事業所」の業績評価やマネジメント・コントロールについて、研究しています。特に、茨城県水戸市の社会福祉法人「ユーアイ村」で使用されている「タスカルカード」に注目しています。

このタスカルカードとは、障害者が取り組む作業が1枚1枚カード化されており、業務の見える化が図られているだけでなく、障害者が安心して何度も作業内容が確認できる仕組みとなっており、さらに、そのカード化された作業を職員がすぐに評価し、障害者の工賃にいくばくか反映される仕組みになっています。

このような組織において、タスカルカードに基づいて、戦略の実行がなされる中で、「現場の裁量性」がどれくらい発揮されているかや、別の企業への伝播について研究しています。

地域連携について

先に紹介したタスカルカードの導入などに関心があります。

また、タスカルカードに限らず、前任校などのときから、ゼミ活動において、地域の事業所と協力して、商品やイベントの企画などを行っています。本学のゼミ活動でも、地域の事業者と協力しながら、社会問題につながるプロジェクトを行おうとしています。

教育機関に対しては、このような「体験活動」を提供でき、地域の事業者には、大学生の感性を提供できるかもしれません。

提供できる知識やスキル

タスカルカードやバランスト・スコアカードの導入について、成功を確約することはできませんが、組織の変化・変革を求める際に、それらの導入について、一緒に頭をひねって、知恵を絞ることができます。

研究実績・講演テーマ

- 「就労継続支援B型事業所の取り組みに関するパイロット調査」(単著)『国際・経済論集』第5号
九州国際大学現代ビジネス学会。
- 「障がい者雇用施設におけるマネジメント・コントロールに関する検討」(単著)『国際・経済論集』第2号
九州国際大学現代ビジネス学会。
- 「会計保守主義と負債選択の関係性に関する一考察」(単著)『産業経理』第72巻第2号
産業経理協会。

地域でのスタートアップ育成支援や地域通貨等のキャッシュレス決済の仕組み構築と事業者支援。

経済学部 国際商学科・大学院経済学研究科

鶴沢 真 教授

TSURUSAWA Makoto

修士(ファイナンス)



キーワード

#スタートアップ #アントレプレナーシップ #イノベーション #キャッシュレス決済

研究の概要

スタートアップやベンチャー企業の新しい資金調達手段について、イノベーションを促進しているかという観点から研究しています。キャッシュレス決済の動向および利用要因についても研究テーマとしています。

地域連携について

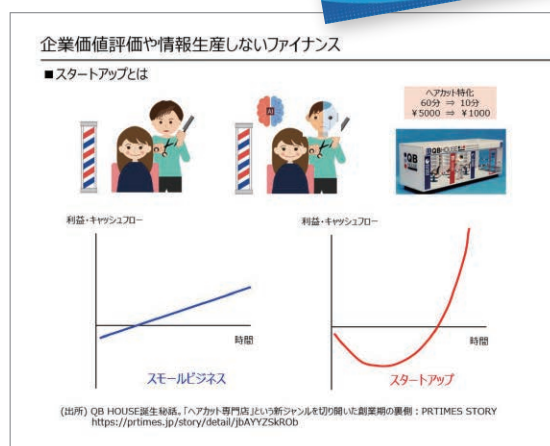
- 地域におけるスタートアップ育成支援
地域独自のスタートアップ支援戦略を構築し、スタートアップを目指す起業家、その支援者を地域に呼び込むことでコミュニティを形成し、スタートアップ企業を創出し、これからの社会に適応できるアントレプレナーシップを持つ人材を育成することで地域産業を活性化するエコシステムを構築します。
- 地域通貨等のキャッシュレス決済の仕組み構築と事業者支援
地域活性化を目的とするスマートフォンやQRコードを利用したキャッシュレス決済やポイント還元プログラムの策定し、事業者での導入および効果的な活用方法を支援します。

提供できる知識やスキル

- スタートアップの育成に不可欠な株式や新株予約権を利用した資金調達手段に関する知識の提供と、資金活用の支援。
- 銀行のeビジネス部門でインターネットを利用したEC決済に関する事業者支援やキャッシュレス決済の仕組みを構築していた業務経験があり、キャッシュレスやポイントに関する知識の提供と、特に事業者側での導入支援。

研究実績・講演テーマ

- 「スタートアップ企業の新たなファイナンス手法ー企業価値評価や情報生産をしないファイナンス」
(共著) 早稲田国際経営研究,第51号、2020
- 『バリュエーションの理論と実務』(共著)日本経済新聞社、2021
- 「MSワラントの資金使途分析ー研究開発型ベンチャー企業のファイナンスー」証券経済研究,第122号、2023



農業生産者、企業、行政と一緒に取り組む 農業や地域を元気にするビジネスの仕組み。



経済学部 国際商学科

西田 郁子 准教授

NISHIDA Ikuko

博士(経済学)

キーワード

#ビジネスシステム

研究の概要

食品産業の持続可能性を高めるビジネスシステムを、経営学の視点を用いて明らかにすることを目的に研究に取り組んでいます。食品産業のなかでも農産物を原料に用いる企業と農業生産者の取引関係に注目しています。

ビジネスシステムの設計、すなわち、自社が価値連鎖上のどのような活動を担い、その活動を担当する取引先とどのような関係を築くかの決定が、企業の存続、発展の鍵になると考えます。企業と農業生産者の取引における利益の分配やリスクの分担のあり方や、取引によって生まれる利益に着目しています。

地域連携について

地域の農業生産者や企業、行政に関わる方々と一緒に、農業や地域を元気にするビジネスの仕組みについて考えていきたいです。前職で農林水産行政に携わってきたことから、特に農産物の流通に注目しています。地元企業と農業生産者、行政、関連団体とがどのような関係を構築し、地域課題に取り組むかについて一緒に考えていきたいです。



和歌山県のみなべ・田辺地域

提供できる知識やスキル

東海・近畿地域におけるフィールド調査をつうじて得た地域農業のビジネスシステムに関する研究成果の提供

研究成果としては、例えば、和歌山県のみなべ・田辺地域では、長い時間をかけて農業者とメーカー、産地仲買人、農協によってネットワーク型取引が構築されており、そこに産業固有の問題に対応するための仕組みが組み込まれていることが、産地の持続可能性に寄与していたことを明らかにしました(Nishida 2021)。

研究実績・講演テーマ

- "The Function of Network-Style Transactions in Local Japanese Industry: A Case Study of the Plum Industry in the Minabe-Tanabe Region of Wakayama" Kindai Management Review Vol.9, pp.92-104, 2021.
- 『地域産業のイノベーションと流通戦略』(共著)千倉書房、2020年
- 「地域産業の生産財取引における関係構築戦略—愛知県西尾抹茶産地の流通システムの事例—」企業経営研究 第22号、pp.47-61、2019年



愛知県西尾抹茶産地

企業行動の分析を通して 社会を考えたい。

経済学部 経済学科

野津 隆臣 講師

NOTSU Takaomi

博士(経済学)



キーワード

ゲーム理論 # 競争政策

研究の概要

ミクロ経済学的なアプローチを用いて企業の意思決定に関する研究を行っています。例えば、自社の商品・サービスの価格は企業にとって重要な意思決定事項であろうことは想像できますが、ではどのように分析できるでしょう。消費者の意思決定はどのように関係してくるでしょう。また、企業や消費者の意思決定は経済にどのような影響を及ぼすでしょう。そして、社会厚生観点で地域や行政は何かができるでしょう。これらを見通す理論の発展に少しでも寄与することを目標に研究に取り組んでいます。

提供できる知識やスキル

経済学理論は広く一般的である一方で、最近の私は、理論を観光産業に活用することを考えています。ご存知の通り、おとなりの山口市は、ニューヨーク・タイムズによる“2024年に行くべき52カ所”(世界の中のお勧めの観光地)に選ばれています。さて、観光客の増加が見込まれる観光地では、どのような課題をどのような問題設定の下で議論をすればよいでしょう。私は今、宿泊産業の観点で論文をまとめています。新しくホテルができれば地域にはどのような影響があるでしょう。この先、うまくいけば、もしかすると、私は有益なコメントを用意して待っているかもしれません。

地域連携について

「まち」が時代と次代に合った機能を有するのならば、それは素晴らしいことだと思っています。まちづくりに関して、誰がどんなことに取り組むとよいかを模索する日々です。経済学部、教養教職機構、データサイエンス学部、看護学部を持つ本学の資源をみるに、本学が提供できるのは、経済、教育、医療といった分野の知見でしょうか。まちづくりに向かって企業・行政・大学が連携して、協力して取り組む体制が今後一層充実すると良いなと思っています。

研究実績・講演テーマ

- ゲーム理論を用いた研究
(学会発表、セミナー講演、査読付論文)

アメリカを対象とした歴史的分析・学術的知見を 公共事業の長期的な評価や、社史編纂などに活かす。

経済学部 国際商学科

日高 卓郎 准教授

HIDAKA Takuro

博士(経済学)



キーワード

#アメリカ経済史 #水資源開発 #連邦政府

研究の概要

20世紀初頭からアメリカ合衆国西部で展開された、連邦政府による水資源開発について歴史的な評価を行う研究をしています。アメリカ合衆国の西経100度以西の地域は乾燥しており、人々が安定して生活するためには水資源開発が必要です。そのため連邦政府の手によって数多くのダム・貯水池が建設されています。農業や水力発電の視点から連邦政府政策そのものを評価するだけでなく、西部への入植を促進する法律との関連や、周辺で発達した製糖産業等の分析を進めています。特定の時期への着目だけでなく、長期的な変化も分析しています。研究を通じて、アメリカ経済の歴史的特徴を、資源と経済の観点から新たに把握することを目指しています。



地域連携について

専門がアメリカ合衆国を対象とした歴史的分析ですので、企業の経営や公的機関の意思決定に直接貢献することは困難ですが、以下のような連携を行うことができます。

- 公共事業の長期的視点での評価
長期間続いている公共事業について、経済史的・経営史的アプローチを用いて評価します。
- 企業の社史編纂
これまでに培った学術的知見を用いて、社史編纂のお手伝いをさせていただきます。
- セミナーの実施
歴史的な知見や、外国の経済・経営について説明する講演・セミナーを行います。

提供できる知識やスキル

アメリカを中心に、欧米の経済史・経営史・環境史についての知識や、様々な取り組みを歴史的に評価する方法を身につけています。特に20世紀アメリカ西部経済については、専門的な知識を提供することが可能です。セミナーや講演会形式で、現在を相対化できるような知識を共有させていただきます。また、共同プロジェクトを行う場合、より質の高い分析を行うために、これまでの研究経験から社会経済史学会・経営史学会などに所属する日本経済史・経営史家の専門家、日本経済学会所属の経済学者をご紹介することもできます。

研究実績・講演テーマ

- 「アメリカ西部の初期に認可された「開墾事業」における農作物栽培の変遷 —1913年-1989年—」アメリカ経済史研究 (21) 43-62 2022年12月。
- 「20世紀初頭米国の開墾部と農務省による農業問題への取り組み(1905年~1920年)」経営史学 56(3) 26-40 2021年12月。

民法学の「代理」という視点からの 成年後見制度の研究。

経済学部 国際商学科

平山 也寸志 教授

HIRAYAMA Yasushi

博士(法学)



キーワード

民法 # 代理 # 成年後見

研究の概要

私の専門は、「民法」を対象とする学問である民法学です。「民法」は、「一般市民同士の財産関係や家族関係について規定した法律」(後藤巻則・滝沢昌彦他編『プロセス講義民法I 総則』(信山社)4頁参照)とされます。そのなかでも、主に、「代理」という制度の研究を続けてきました。民法の基本原則として、私的自治の原則があり、例えば、契約は、自分自身が締結することが原則ですが、一人でできることには限界がありますので、信頼できる他人(代理人)を選任して、この代理人にその判断で契約を締結してもらうことができます。この代理制度により、我々は、自分の経済的な活動の範囲を広げることができます。

地域連携について

民法学のなかでも「代理」の研究を進めていますが、成年後見人も代理人であるので、代理人としての成年後見人に着目して成年後見制度の判例研究などもしております。

このような理論的な側面から日ごろ研究しておりますので、成年後見の実務の現状を知りたいと思っております。例えば、判例研究で老親と成年子との面会に関する裁判例を研究したことがあります。判例研究をより深めるためには行政や地域の企業の成年後見実務がどのように行われているのかを教えてくださいたいと思っております。

提供できる知識やスキル

私の研究は、前述の如く、代理制度に関する理論的な基礎的な研究です。知的好奇心から研究を進めており、必ずしも実務に貢献をすることを目標に研究を続けてきたわけではありません。しかし、私が執筆した成年後見法に関する裁判例研究を読んだと言って、ある日突然、見知らぬ裁判実務に携わる方から意見を求めて連絡をいただいたことがありました。そこで、私の研究業績をご覧になり、もし、実務の方面から興味を持たれた場合には、何かお役に立てることがあるかもしれませんので、ご連絡を頂きたいと思っております。地域連携等を検討させていただきたいと思っております。

研究実績・講演テーマ

- 拙著『代理権濫用の研究』(信山社、2018年12月)
- 田村耕一＝堀田親臣＝町田余理子編『民事法改革の現代的課題 鳥谷部茂先生・伊藤浩先生古稀記念』(「1代理権濫用と無権代理人の責任(民法改正法117条)に関する序論的考察—今後の検討の方向性」5-29頁、平山也寸志執筆担当)(信山社、2023年11月)
- 「裁判例研究 成年子である長男・二男が、老親所有の自宅で同居する亡長女の子により自宅内への立入りが許されず老親に面会できなかったが、自宅への立入りを許さなかった点をもって社会的に不相当な違法行為と評価するのは相当でない等とされた事例—東京地裁平成29年1月31日—」実践成年後見100号120-128頁(2022年9月)



和風漢文で書かれた日本中世の古文書・古記録の解読、 中世武家領主の知見や、山口県域の歴史知識の提供。



経済学部 経済学科

藤井 崇 准教授

FUJII Takashi

博士(経済学)

キーワード

地域権力 # 前近代地域経済史 # 室町期大名 # 戦国大名 # 長門探題 # 大内家 # 厚東家

研究の概要

日本中世の大名大内家をはじめとした中世武家領主や、周防国与田保(現、柳井市)などの山口県域にあった荘園や国衙領、長門国一宮住吉神社(現、下関市)や同国二宮忌宮神社(同)や同国龍王神社(同)、周防国興隆寺(現、山口市)や同国遠石八幡宮(現、周南市)といった山口県内の寺社について研究しています。

地域連携について

地域の中世武家や寺や神社に関する史料がどの程度あり、どのようなことが分かっているのかの情報を共有したいと考えています。また、もし、家で眠っている古文書があれば、下関市立博物館と連携しつつ、内容を分析し、保管方法などについて助言などできます。また、放置すると消えていく一方の、地域に残る風習や、歴史的小字(こあざ)名や、各家の屋号などについてデータ化し、共有したいと考えています。また、一般の方や高校生の方による歴史系イベント開催の要望があれば、本学と共同開催するサポートをしたいと考えています。

提供できる知識やスキル

- 和風漢文で書かれた活字の日本中世の古文書や古記録(日記や歴史書)を解読することができる。
- 中世の古文書であれば、それほど得意ではないが、くずし字を読むことができる。
- 日本中世の大名大内家の総合的な知見や、当該期の山口県域の歴史知識を提供できる。
- 中世の山口県域と、「大内分国」と呼ばれた、現在でいう広島・島根・福岡・大分県北部・佐賀県北部域との関係についての知識を提供できる。
- 鎌倉幕府の広域支配機関、長門探題や、長門国の伝統的豪族厚東(ことう)氏についての歴史知識を提供できる。

研究実績・講演テーマ

研究実績

- 単著『室町期大名権力論』(同成社、2013年)
- 単著『大内義興』(戎光祥出版、2014年)
- 単著『大内義隆』(ミネルヴァ、2019年)



共同研究の概要

熊本大学教授春田直紀氏を研究代表者とする科学研究費(独立行政法人日本学術振興会支給研究費)に基づく研究、「中世地下(じげ)文書の文書実践論的研究」(課題番号:23K21966)に研究協力者として参画しています。特に下関市龍王神社さんの古文書の調査に協力しています。



企業で働く従業員や地域住民に わかりやすい教養セミナーや講演などで貢献。

経済学部 国際商学科・大学院経済学研究科

村田 和博 教授 経済学部副学部長

MURATA Kazuhiro

博士(経済学)

キーワード

経営学史 # 経済学史 # 古典派経済学 # イギリス経営学史

研究の概要

18世紀後半から19世紀中葉までのイギリスの企業を経済学史と経営学史の研究をしています。経済学史の区分では古典派経済学の時期に該当しますが、分析手法として、経営理論を用いる点が研究の特徴です。

近年では、

- ①コミットメント、一体化、モチベーション論、協働論といった経営理論を用いて労働に関する経済学説を分析
- ②科学的管理運動の先駆者とみなされているC. バベッジと科学的管理の父と呼ばれるF. W. テイラーの比較考察を行っています。

地域連携について

経済学史(アダム・スミスなど過去の経済学者の理論と思想を研究)と経営学史(テイラーなど過去の経営学者の理論と思想の研究)が専門分野なので、地域の企業や行政に対して自らの専門分野を活用することは難しいと考えられます。そのため、企業で働く従業員や地域住民に対するわかりやすい教養セミナーや講演(大学の経済学部の学部生レベルの講義)などで貢献ができと考えています。

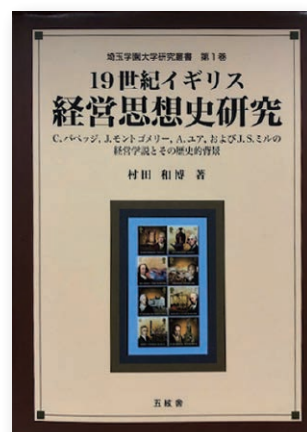
提供できる知識やスキル

以下の内容について、知識の提供が可能です。

- 重商主義時代以降の経済学の理論と思想の形成史について。
- 経営学の理論と思想の形成史について。
- 基本的な経営理論(経営戦略論、モチベーション論など)について。

研究実績・講演テーマ

- 村田和博著 2005年
『経営学—学説、理論、制度、そして歴史—』五紘舎
- 村田和博著 2010年
『19世紀イギリス経営思想史研究—C. バベッジ、J. モントゴメリー、A. ユア、およびJ. S. ミルの経営学説とその歴史的背景—』五紘舎
- 村田和博著 2019年
『基礎から学ぶ経営学 〔第3版〕』五紘舎



海外進出した小売企業の成功・失敗要因等の分析やマーケティング戦略について、知見・知識を提供。

経済学部 国際商学科・大学院経済学研究科

柳 純 教授

YANAGI Jun

博士(学術)



キーワード

日本小売企業 # 国際マーケティング # 海外進出 # 海外撤退

研究の概要

私の研究のテーマは「日本小売企業の国際マーケティング」です。海外へ進出した日本小売企業が「グローバル」な視野に立脚しながら、かつ現地市場において「ローカル」な適応が求められる際に、日本本社と現地法人との間における知識移転プロセスおよびマーケティング戦略が重要な鍵となっています。そこで、日本小売企業が現地で長期間にわたり多店舗展開し、成功を収めるための様々なマーケティング戦略や現地適応化行動の解明を試みています。

地域連携について

小売業は地域に密着した産業であり、端的にわれわれ消費者にとって、最も身近な買物場所を提供しています。しかし、コロナ禍を経て消費者行動の変容が、地域商業に大きな影響を与えている面は否めません。小売業は取り扱い商品(業種)や営業形態(業態)によっていくつかに分類されますが、共同研究では、地元の業種店やスーパーやコンビニを中心に、「地域密着の意義の再確認や製造機能の強化」も視野に入れながら、小売業の活性化について議論したいと考えています。可能ならば学生も参画させて、小売マーケティング戦略の提案ができれば幸いです。



提供できる知識やスキル

これまで「小売国際化研究」を進めてきた関係で、海外へ進出した小売企業の成功要因ならびに失敗要因等の要因分析やマーケティング戦略について、得られた知見・知識を提供することが可能です。また、共同研究を視野に入れて、自身が所属する日本商業学会、日本流通学会、日本マーケティング学会等の「商業」、「流通」、「マーケティング」に係る専門分野の教授などを紹介できます。

研究実績・講演テーマ

- 『アジアにおける日本小売企業の進出プロセスと撤退インパクトに関する研究』(平成29～31年度日本学術振興会科学研究費助成事業)(基盤研究(C))研究代表者
- 「日本小売企業の国際マーケティングの再考」『下関市立大学論集』第65巻第2号、2021年12月、83～102ページ。
- 『日本小売企業の国際マーケティング-アジア進出の軌跡と国際知識移転プロセス-』(単著)同文館出版、2022年9月。





中国、カンボジア、日本での豊富な勤務経験と 異文化コミュニケーション力で多文化共生社会の推進に寄与。

経済学部 国際商学科

劉 澤文 助教授

LIU Zewen

修士(経済システム専攻)



キーワード

#カンボジア #東南アジア #農産物 #土地開発 #経済成長 #外国直接投資

研究の概要

カンボジアはCLMVの一員として、東南アジアで最も開発が遅れている国の一つです。カンボジアでは人口の6割以上が農村に暮らし、GDPの2割が農業によって占められています。カンボジアにとって、農業開発と農村住民の生活改善は依然として重要な課題です。近年、カンボジアの農産物輸出は急速に伸びています。この輸出急増の要因としては、中国企業による大規模な土地開墾と機械化生産の推進が挙げられます。現在、私はカンボジアの輸出向け農産物を生産する中国企業を対象に現地調査を行い、その生産活動が現地農村にどのような影響を与えるのかを明らかにしたいと考えています。

地域連携について

【地域経済の国際化】

海外のビジネス環境の調査や市場分析を行い、地域企業に対して進出戦略やビジネスマッチングの機会を提供します。また、海外でビジネスマッチングイベントを共催し、地域企業と海外のビジネスパートナーとの協力関係を構築します。

【多文化共生の促進】

外国人住民向けに生活情報やサポート体制を整えるとともに、地域社会と外国人住民の相互理解を深めるための交流イベントを企画し、地域経済の国際化と多文化共生の実現を目指します。



カンボジア地図



バナナ工場働く人々



カンボジアのバナナ農園

提供できる知識やスキル

カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム(CLMV)は農業国として知られ、日本企業の進出が活発化しています。私は東南アジア、特にCLMV諸国の経済状況や現地社会の慣習について深い理解を持ち、現地でのビジネス事業展開に関する具体的な知見を提供できます。特に、カンボジア、ラオス、ベトナムの農産物輸出に関するネットワークを有し、現地企業との協力関係の形成において橋渡し役を果たせます。また、私は中国、カンボジア、日本において豊富な勤務経験を持ち、異文化コミュニケーション力が鍛えられており、多文化共生社会の推進に寄与できます。

研究実績・講演テーマ

- 「カンボジアにおける中国企業による商業農産物の栽培と輸出 ―クロチェヘ州における大規模バナナ農園の事例から」
第18回 日本カンボジア研究会, 2024.7
- 「カンボジアにおける農産物輸出産業の成長が農村社会に与えるインパクトについて―中国バナナ企業の出稼ぎ労働者に着目して―」
2024年度東アジア学会, 徳島賞(若手研究者研究奨励制度)
- 「カンボジアにおける中国企業の農地取得による大規模農業生産が現地農村社会に与えたインパクトに関する調査研究」
2024年度 アジア・オセアニア研究助成, 調査研究助成・個人研究



収穫されたキャッサバ芋

“1バイト”の原石で世界を創造する

Faculty of Data Science

データサイエンス学部

データサイエンス学科

ページ		所属	専門分野
26	松本 義之	マツモト ヨシユキ	データサイエンス学科 テキストマイニング・自然言語処理・SNSマーケティング
27	近藤 宏樹	コンドウ ヒロキ	データサイエンス学科 確率論・保険数理・数学教育
28	酒井 浩	サカイ ヒロシ	データサイエンス学科 ラフ集合データ解析・応用数学
29	徐 明	ジョー メイ	データサイエンス学科 ライフサイエンス
30	白濱 成希	シラハマ ナルキ	データサイエンス学科 感性情報学・感性計測評価・主観情報処理・ソフトコンピューティング
31	田中 信彦	タナカ ノブヒコ	データサイエンス学科 バイオインフォマティクス・データサイエンス
32	中岡 伊織	ナカオカ イオリ	データサイエンス学科 経営情報・経営システム
33	中上 裕有樹	ナカガミ ユウキ	データサイエンス学科 統計学・データサイエンス・ヘルスデータサイエンス・生物統計学・消化器がん・統計のコンサルティング
34	坂東 幸浩	バンドウ ユキヒロ	データサイエンス学科 ビッグデータモデリング・知能情報処理
35	福田 龍樹	フクダ タツキ	データサイエンス学科 シミュレーション
36	松浦 健二	マツウラ ケンジ	データサイエンス学科 薬理学・データサイエンス
37	藪内 賢之	ヤブウチ ヨシユキ	データサイエンス学科 多変量解析・ソフトコンピューティング・技術経営
38	山根 智	ヤマネ サトシ	データサイエンス学科 情報科学(人工知能・ソフトウェア科学)
39	和多田 淳三	ワタダ ジュンゾウ	データサイエンス学科 ファジイ集合理論・金融工学・経営工学・メタヒュリスティックモデル・映像解析・深層学習ニューラルネットワーク・人工知能

14
SEEDS

SNS上の投稿を収集し、データを分析・収集。 観光地「下関」の地域振興の一助に。

データサイエンス学部 データサイエンス学科・大学院経済学研究科

松本 義之 教授 データサイエンス学部長
MATSUMOTO Yoshiyuki
博士(工学)



キーワード

#テキストマイニング #SNSマーケティング #ディープラーニング
#画像認識 #自然言語処理

研究の概要

現代社会のマーケティングにおいて、SNSは非常に重要な位置を占めています。SNSはインターネットにおける最も利用人数が多いサービスの1つであり、個人による「口コミ」情報が多数投稿されています。また、その「口コミ」情報を求めて、多くの人がSNSの情報を検索・閲覧しています。

私の研究では、SNSに投稿されたテキストデータを分析し、企業マーケティングなどに役立つ様々な知見を得ることを目的としています。テキストマイニングや自然言語処理を利用して、消費者の行動や意見を分析することで、様々な知見を得る事が出来ます。

地域連携について

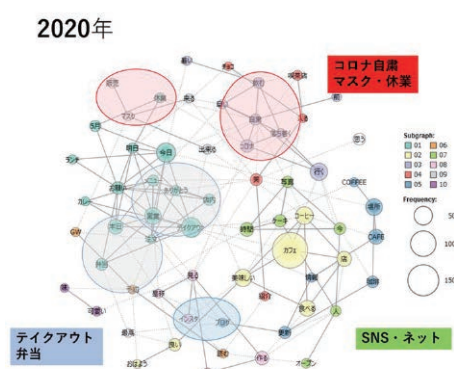
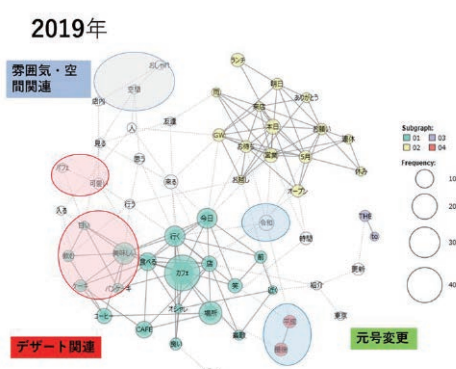
SNSでは、旅行者が自らの体験を共有することが容易となっています。旅行先で体験した事柄をSNSに投稿することで、他のユーザーがその情報を閲覧し、観光地の評判や人気に影響を与えます。下関に関連したSNS上の投稿を収集し、そのデータを分析することで、下関の観光地としての特徴を分析することができます。また、他の観光地について、データを収集し、分析を行うことで、下関の地域振興の一助となると考えています。

提供できる知識やスキル

- テキストマイニング
SNSやアンケートの自由回答、商品レビューなどのテキストデータを分析する。よく出現する単語(頻出語)や単語同士の関連(共起ネットワーク)を用いてテキストデータの特徴を抽出する。
- 自然言語処理
機械学習の手法を用いて、テキストのネガポジ分析(文章をネガティブ・ポジティブ・ニュートラルに分類する)などを行う。

研究実績・講演テーマ

- 「SNSにおけるコロナ禍と非コロナ禍の観光情報分析」, 日本知能情報ファジィ学会, 2024
- 「下関地域における Twitter を利用した観光情報分析」, バイオメディカル・ファジィ・システム学会誌, 2020
- “Analysis of Regional Information Collected from Twitter”, International Journal of Biomedical Soft Computing and Human Sciences, 2016



数理教育の可能性や 保険・金融分野におけるデータ分析の協働。

データサイエンス学部 データサイエンス学科

近藤 宏樹 准教授

KONDO Hiroki

博士(数理学)



キーワード

数学教育 # 保険数理

研究の概要

確率論に関連した話題では、可積分系や量子群に関連して現れるYang-Baxter方程式の集合論的な解及び、独立性保存則との関連について研究を行っています。また、保険分野においては、機械学習的な分析手法の保険数理への応用及び伝統的な手法との関連性、解釈可能な機械学習の手法といった話題に興味を持っています。

教育分野では、数学に関するコンテストの教育的効果や、機械学習や人工知能の数学教育への応用について興味を持っています。

地域連携について

数理・データサイエンス・AI教育の強化が求められている中、地域において将来を担う数理人材の発掘や育成に向けた取り組みができればと考えています。高等学校での数学教員、数学に関するコンテストの運営、大学におけるデータサイエンスの基礎としての数学教育といった経験を踏まえて、中等教育から高等教育あるいは社会での活躍に繋がるような数理教育の可能性を開いていきたいです。

また、保険数理の分野におけるデータ分析の経験から、保険・金融分野におけるデータ分析の協働も可能です。

提供できる知識やスキル

数学教育関連では、通常のエデュケーションに加えて国際バカロレア(IB)ディプロマプログラムの指導経験や数学オリンピック等のコンテストの監修経験があり、数学に興味のある学生・生徒向けの活動、あるいは興味を惹きつける方法等についてのアイデアを提供できる可能性があります。

保険数理やデータ分析関連では、アクチュアリー経験から損害保険数理関連の知識が提供できるほか、Microsoft Excel、R、Python等を用いた分析やその助言を行うことができます。

研究実績・講演テーマ

- 北九州市「スー1★グランプリ」監修
- A concrete approach to diagonal short asymptotics of heat kernels associated with sub-Laplacian on CR manifolds, Kyushu Journal of Mathematics 71(1), 65-84.
- Bayesian approach to measuring parameter and model risk in loss ratio estimation, Journal of Math-for-Industry 4(B), 85-89. (with Shingo Saito)

RNIAを用いて、意思決定支援、欠損値補完、特徴抽出・選択、属性の依存関係把握などに活用。

データサイエンス学部 データサイエンス学科

酒井 浩 教授

SAKAI Hiroshi

理学博士



キーワード

ラフ集合と粒状計算 # 表データ解析 # ルール生成 # 不完全情報
NIS-アプリアリアルゴリズム # 意思決定支援 # ルール生成による機械学習

研究の概要

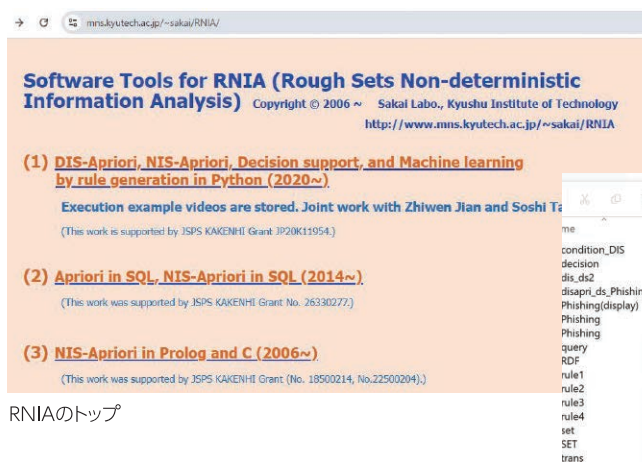
「ラフ集合非決定情報解析(RNIA)とその応用」

表形式データにおける依存関係をルールとして生成する研究を進め、さらにその生成機能を不完全情報に広げるためにNIS-アプリアリアルゴリズムを提案・実現しています。RNIAにより得られたルールを意思決定支援、欠損値補完、特徴抽出・選択、属性の依存関係把握などに活用します。表データであれば一様に処理できるため汎用性が高く、平均や分散の定義が難しい離散値表データを処理するため、統計的手法の補完にも繋がると考えます。

地域連携について

種々の表データが離散値データの場合、統計的な手法によるデータ解析に難点が生じることが多いです。RNIAのツールを用いて、表データから読み取れるルールを生成し、表データの特徴把握を行えないかと考えます。下記のリンク先に実行例の動画があります。

<https://www.mns.kyutech.ac.jp/~sakai/RNIA/>



提供できる知識やスキル

- 提案しているラフ集合非決定情報解析とそのツールに関する解説
- ラフ集合理論、アプリアリアルゴリズム、データマイニングの概要の説明
- 応用数学に関連する数理的枠組みの解説。

研究実績・講演テーマ

- ラフ集合非決定情報解析における欠損値補完とルール生成による機械学習に向けた試み、知能と情報誌、2023年、
https://doi.org/10.3156/jsoft.35.4_746
- ラフ集合非決定情報解析とNIS-アプリアリアルシステム -可能世界意味論に基づくルール生成システム-、知能と情報誌、2020年、
https://doi.org/10.3156/jsoft.32.4_747
- NIS-Apriori-based rule generation with three-way decisions and its application system in SQL、Information Sciences誌、2020年
<https://doi.org/10.1016/j.ins.2018.09.008>

RNIAによる実行例、得られたルール(上部)と意思決定支援(下部)

バイオマーカーの探索・研究、機能性食品の開発・試験・評価、 日中の人材交流活動などを支援。



データサイエンス学部 データサイエンス学科

徐明 講師

XU Ming

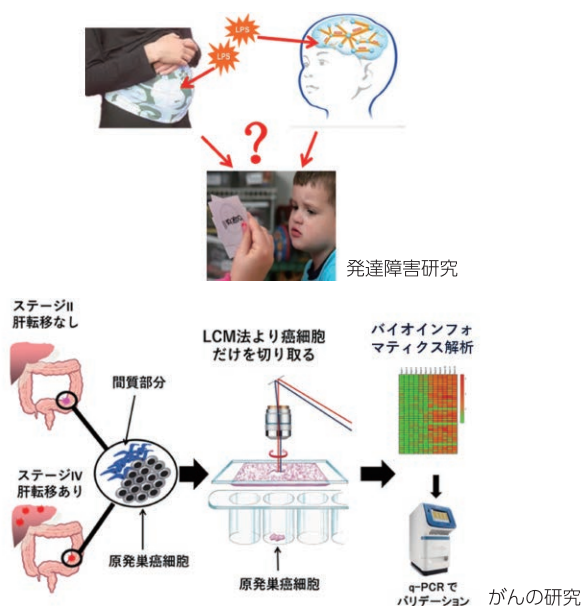
博士(医学)

キーワード

癌の分子生物学

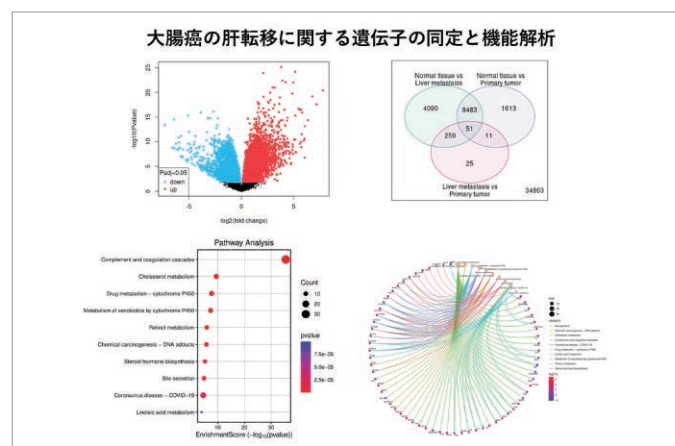
研究の概要

現代社会、人の寿命が徐々に延び、健康への関心が高まっている。私はライフサイエンス分野の研究に注力してきました。これまで主に小児脳の発達障害、ストレスに起因する精神神経疾患、消化管腫瘍に関する研究に従事した。



提供できる知識やスキル

私は主に生理学、薬理学の分野で研究を行っており、地域の共同研究ではこれまでの研究経験を活かし、疾患のバイオマーカー探索、疾患の新たな治療標的の開発、新製品の機能性・毒物学的評価などを地域企業に提供しています。同時に、現地企業が中国市場に参入する際の言語サポートも提供できます。

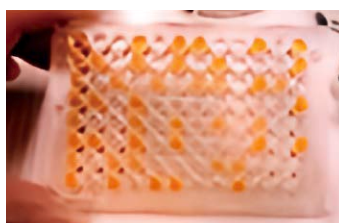


研究実績・講演テーマ

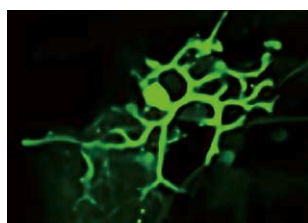
- Anti-VEGF and Anti-EGFR Antibody Therapy on T-Cell Infiltration and TCR Variation in Metastatic Colorectal Cancer. Anticancer Research 2023, 43 (2); doi.org/10.21873/anticancer.16197
- A phase I study of a novel therapeutic vaccine as perioperative treatment for patients with surgically resectable hepatocellular carcinoma: The YCP02 trial. Hepatol Res. 2023;53(7):649-660. doi:10.1111/hepr.13900.
- High serum proteinase-3 levels predict poor progression-free survival and lower efficacy of bevacizumab in metastatic colorectal cancer. BMC Cancer. 2024 2;24(1):165. doi:10.1186/s12885-024-11924-4.

地域連携について

地域のライフサイエンス関連企業と連携して疾患関連バイオマーカーの探索・研究を行い;機能性食品の開発、有効性試験、評価を行うことができます。同時に、地域企業による日中人材交流の活動にも参加していきたいと考えています。



機能性食品の評価試験



人間の感覚や感情を数値化・可視化する技術で 少人数のデータから傾向を把握できる分析手法を開発。

データサイエンス学部 データサイエンス学科

白濱 成希 教授

SHIRAHAMA Naruki

博士(工学)

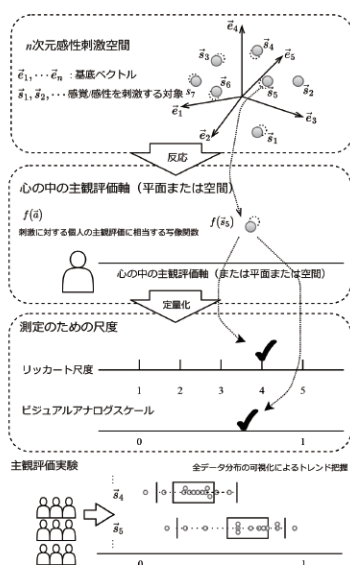


キーワード

#主観情報処理 #Visual Analog Scale #会話のニュアンスの定量化
#脳血流量計測 #クラスタリング #機械学習 #データ可視化 #R, Python, Julia

研究の概要

私の研究テーマは「人間の主観や感性を数値化し、AIに反映させる技術の開発」です。具体的には、Visual Analog Scaleという尺度を用いて、人間の感情や印象を数値化する手法を確立しました。例えば、商品の印象評価や接客サービスの満足度など、言葉で表現しづらい主観的な感覚を数値で表すことができます。さら



に、この数値データを機械学習に活用することで、より人間の感性に近いAIの開発が可能になります。この技術は、地域企業の商品開発やサービス改善に直接活用できます。例えば、新商品のデザイン評価や、観光地の満足度調査などに応用できるでしょう。また、ユーザーのニーズを数値化し、きめ細かな福祉サービスの設計にも貢献できると考えています。

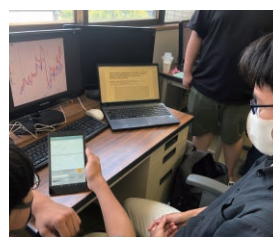
主観評価モデル概念図

地域連携について

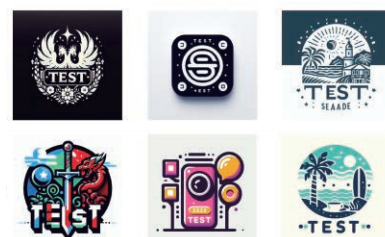
地域の企業や行政と協力して、データサイエンスを活用したDX推進に貢献したいと考えています。具体的には人材育成プログラムの開発・実施を通じて、地域の産業界におけるデジタル化を加速させたいと思います。また、私の専門である感性情報処理とデータ分析のスキルを活かし、観光、高齢者福祉、地域振興などの分野で新たな価値創造に取り組みたいと考えています。例えば、観光客の行動データと感性評価を組み合わせた観光資源の魅力向上、高齢者の生活質向上のためのデータ駆動型サービスの開発、地域の伝統産業における感性品質の定量化などが考えられます。機会があれば地域住民向け、データリテラシー普及啓発活動にも取り組みたいです。

提供できる知識やスキル

私は主観評価と感性情報処理の専門家として、人間の感覚や感情を数値化・可視化する技術を有しています。特に、Visual Analog Scaleを用いた主観評価手法を用いた、少人数のデータでも傾向を把握できる分析手法を開発しました。この技術は、製品開発やサービス改善において顧客の微妙な感覚や好みを定量的に把握するのに役立ちます。例えば、食品の味や香りの評価、インターフェースの使いやすさ、広告の印象など、様々な分野で活用できます。また、脳血流量計測技術を用いて、作業効率や学習効率と環境要因の関係も研究しています。アンサンブル学習による顧客向け商品推薦システム開発や、生成AIで作成した企業ロゴイメージの主観評価実験なども行っています。



脳血流量測定装置



生成AIによるジャンル別ロゴ作成

研究実績・講演テーマ

- AI技術を用いた血液透析治療中の非観血的留置針抜針検知システムの開発、日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) (分担、2024年4月～2028年3月)
- 生体計測と感性情報処理研究ネットワーク、独立行政法人国立高等専門学校機構 研究プロジェクト経費助成事業研究ネットワーク形成事業 (主担当、2020年～2021年)
- コミュニケーションに注目した健康相談活動支援システムについての基礎的研究、日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) (分担、2016年4月～2019年3月)

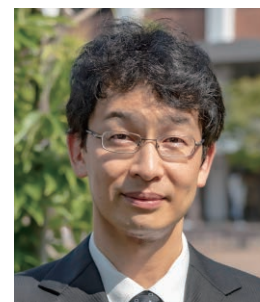
統計解析スキルを駆使し、 地域の産業振興や医療の質向上に貢献。

データサイエンス学部 データサイエンス学科

田中 信彦 准教授

TANAKA Nobuhiko

博士(農学)

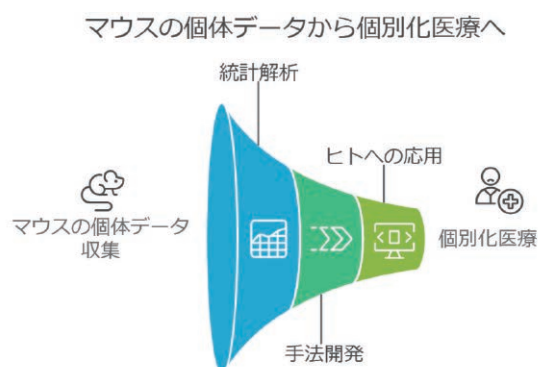


キーワード

#統計解析 #機械学習 #実験動物学 #遺伝学 #トランスオミクス
#フェノーム #表現型 #ビッグデータ #マウス #データマイニング

研究の概要

現在、マウスの個体差に注目した研究を行っています。見た目に見られる特徴や病気のなりやすさなどの個体差を、体重や血液データといった膨大な情報から統計学的に分析しています。具体的には、様々な統計解析手法を駆使して、個々のマウスの異常を精密に数値化する新しい手法を開発しました。この技術はマウスだけでなく、将来的にはヒトの体質や病気リスクを個別に予測する「個別化医療」への応用が期待されます。マウスでの成果をヒトに応用することで、より効果的で副作用の少ない治療法の開発につながることを期待されます。

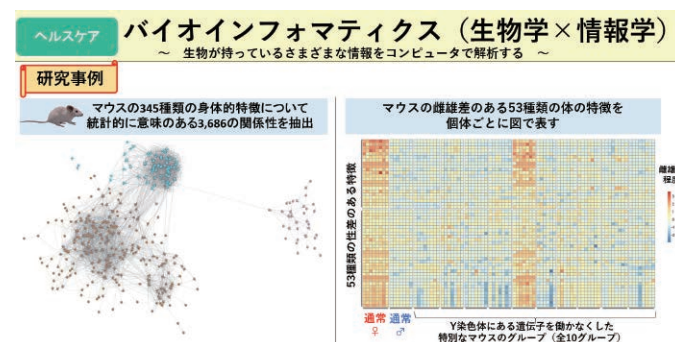


地域連携について

製薬会社やバイオテクノロジー企業との共同研究により、新薬開発や既存薬の効果検証のためのデータ解析を提供します。また、自治体との協力により、健康増進プログラムに科学的根拠を提供し、地域住民の健康をサポートします。IT企業との協働では、分析手法のソフトウェア化を推進し、効率的なデータ解析を可能にします。教育機関との連携では、次世代研究者育成プログラムを開発し、研究の継承と発展を目指します。保険会社との協力では、新しい保険商品の開発を支援します。これらの連携を通じて、研究成果の社会実装を加速させ、地域の産業振興や医療の質向上に貢献することを目指します。

提供できる知識やスキル

長年培ってきたマウス表現型データ解析の知見と高度な統計解析スキルを駆使し、貴社が抱える課題の解決を支援いたします。具体的には、データクレンジングと前処理を行い、貴社の膨大な個人レベルのデータの品質向上を図ります。また、統計モデリングと機械学習技術を用いて、疾患リスク予測や潜在的顧客予測など、大量データからの特徴抽出やパターン認識、分類・予測モデルの構築と検証を行います。さらに、解析結果を分かりやすく可視化し、解釈を支援いたします。これらの支援を通して、研究開発の効率化や新たな知見の獲得に貢献いたします。



研究実績・講演テーマ

- Oestereich MA. et al. Comprehensive ECG reference intervals in C57BL/6N substrains provide a generalizable guide for cardiac electrophysiology studies in mice. **Mammalian Genome** 2023. 34 (2):180-199.
- Birling MC. et al. A resource of targeted mutant mouse lines for 5,061 genes. **Nature Genetics** 2021, 53: 416-419.
- Tanaka N. & Masuya H. An atlas of evidence-based phenotypic associations across the mouse phenotype. **Scientific Reports** 2020, 10: 3957.

ビジネスのデータサイエンスの観点から 地域企業や行政に、課題・実践ベースのアプローチ。

データサイエンス学部 データサイエンス学科

中岡 伊織 准教授

NAKAOKA Iori

博士(工学)



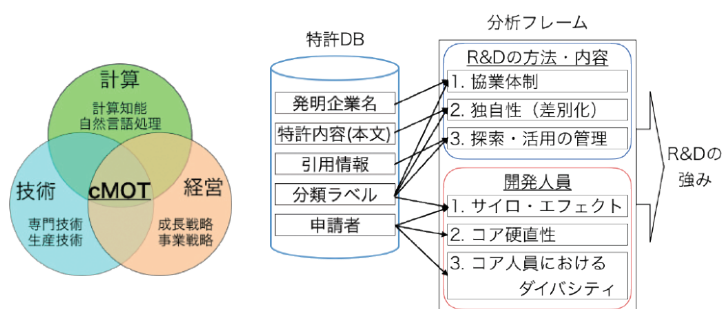
キーワード

技術経営 # 経営情報 # R言語 # 意思決定支援

研究の概要

近年グローバル市場において多くの日本企業が競争優位を獲得できず苦しんでいます。日本経済全体の好転のためにも、各社が効率的な研究開発戦略を取ることで競争優位を取り戻すことは喫緊の課題となっています。

そのためには、現在の研究開発の手法よりR&Dの強みや経営成果につながるためのフレームワークが必要となります。一般に技術経営の領域においてはインタビュー調査やアンケートにもとづく研究が多く、状況を容易かつ正確に捉えることは難しい状況です。そこで企業R&D戦略の方法・内容および開発人員・組織より定量的な表現を行う、cMOT (computational MOT) フレームワークとして体系化・指標化し、現在の研究開発手法からR&Dの強みや経営成果へとつなげるための方策について研究しています。



地域連携について

近年、政府や市町村などの自治体から提供されるオープンデータに注目が集まっています。

オープンデータを活用することにより、企業としては各社における経営課題を解決するための方策について、行政としてはまちづくりや地域活性のための方策について役立てることができると期待されています。

地域の企業や行政のみなさまと、課題ベース・実践ベースのアプローチより、ビジネスのデータサイエンスの観点から協力ができれば幸いです。

提供できる知識やスキル

特に技術開発戦略や経営システムについて、ビジネスにおけるデータサイエンスとして定量的なアプローチにより導出することに興味があります。

- 企業経営において生み出される各種データから、自社の強みを生み出すための経営戦略に役立てるためのデータ処理についての支援
- 自社のみならず他社に関連するデータから市場全体に関する状況把握についての支援
- ネットワーク組織の観点からの経営組織についての検討
- R言語を利用した解析方法の支援

研究実績・講演テーマ

- Iori Nakaoka, Yousin Park, Hirochika Akaoka, Yunju Chen, Visualization of Corporate R&D Capabilities: Patent Data Analysis of Major EV-Related Firms, The 15th Asian Academy of Management International Conference (2023)
- 陳韻如, 井村直恵, 中岡伊織, 中国企業の雇用・人事管理のダイナミクス: テキスト分析による国有企業と民営企業の比較への試み, 龍谷大学経営学論集, Vol. 61, No. 4, pp. 25-44 (2022)
- 井村直恵, 中岡伊織, 陳韻如, テキスト分析によるアメリカ企業の経営システムの地域性について, 実践経営, Vol. 59, pp. 75-82 (2022)



医学研究をはじめ、自然・人文社会科学系分野の統計的コンサルティングを問題解決の支援に。

データサイエンス学部 データサイエンス学科

中上 裕有樹 講師

NAKAGAMI Yuki

博士(医学)・理学修士(統計学)・Graduate Certificate(生物統計学)



キーワード

#統計学 #データサイエンス #ヘルスデータサイエンス #生物統計学 #自然・人文社会科学系分野への統計的コンサルティング
#R #個別化治療 #橋渡し研究 #臨床試験 #消化器がん #がん免疫 #次元縮約 #分類 #SAS #Python #Julia

研究の概要

現在まで、統計学・データサイエンス的手法の特に消化器がん研究への応用法や臨床試験を含む様々な医学研究の統計的コンサルティングを中心に論文化・個別化治療に繋がる研究を行ってきました。入局している山口大学大学院医学系研究科消化器・腫瘍外科学講座、公衆衛生学・予防医学講座や関門医療センターなどの各医療・研究機関およびIT/製薬系企業等との共同研究も推進しています。その他、自然・人文社会科学系分野の統計的コンサルティングも行っています。

地域連携について

これまでの経験として、山口大学大学院医学系研究科などと現在産官学で進行中の共同研究である臨床研究「高齢者の健康づくりをテーマとした地域での介入研究」や国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所や大手のIT/製薬企業とも「全国のデジタルヘルスデータ基盤構築」等で解析・基盤・アプリ開発の研究も進めています。研究室の学生とも一緒に、小さな規模でも良いので幅広く「健康」をテーマに何か地域の皆さんにも還元出来るようなプロジェクトが考えられます。その他、「健康」以外でも何でも「データ」に関わるもので地域に還元可能な内容も行えると考えています。

山形大学 講義シート

医療・ビッグデータ・統計学・データサイエンス・医療統計学・生物統計学・バイオ統計学・ヘルスデータサイエンス・個別化医療・統計学

医療を統計で解き明かす 生物統計学の役割

医療分野での統計学の専門家

医療現場では、膨大なデータの中から有用な情報を抽出し、それを基に診断や治療の意思決定を行います。この過程で、統計学は重要な役割を果たしています。特に、医療データの特性（例えば、データの欠損、データの偏り、データの多変数性など）を考慮し、適切な統計手法を用いてデータを分析することが求められます。

新たな価値を創出する

医療データの活用は、単にデータを分析するだけでなく、その結果を基に新たな価値を創出することが求められます。例えば、医療データの活用により、新たな診断方法の開発や、新たな治療法の開発などが可能になります。また、医療データの活用により、医療の効率化やコスト削減も実現できます。

ヘルスデータサイエンスとは

この分野の研究は、医療データの活用を促進することを目指しています。具体的には、医療データの収集・管理・分析・活用に関する技術や手法を開発し、医療現場での応用を促進することです。ヘルスデータサイエンスは、医療とITの融合による新たな価値の創出を目指す学際的な分野です。

山形大学 データサイエンス学部 データサイエンス学科

中上 裕有樹 先生

山形大学 データサイエンス学部 データサイエンス学科

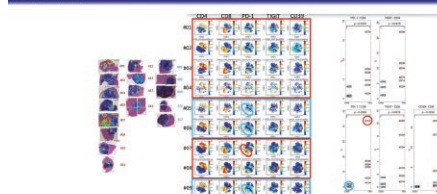
中上 裕有樹 先生

山形大学 データサイエンス学部 データサイエンス学科

中上 裕有樹 先生

夢ナビ講義シート

がん人の研究



肝がんの臨床試験

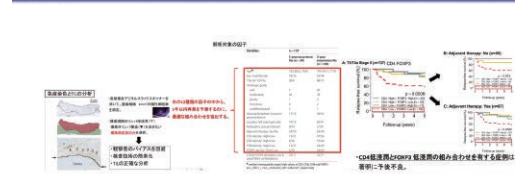
提供できる知識やスキル

現在まで、小さな研究から大きな研究まで様々な分野のデータの「計画」・「収集」・「解析・解釈」に関する統計的コンサルティングを行ってきました。欧米の統計学の専門学部では一般的に行われている学内外への統計コンサルティングによる問題解決の支援のイメージで、何かコラボレーションしてお手伝い出来ることがあれば研究室の学生と共に進めていくことを考えています。何となくデータを集めた後にさてどうしていくかとお悩みになる前に、是非データを集める前の段階からご相談下さい。

研究実績・講演テーマ

- Safety and Feasibility of Neoadjuvant-Modified FOLFIRINOX in Elderly Patients with Pancreatic Cancer (高齢者膵癌に対する術前mFOLFIRINOX療法の安全性と実施可能性). Yoshitaro Shindo, Tatsuya Ioka, Yuki Nakagami, et al. Cancers. 2024.
- CD4 and FOXP3 as predictive markers for the recurrence of T3/T4a stage II colorectal cancer: applying a novel discrete Bayes decision rule (T3/T4a ステージII大腸がんの再発予測マーカーとしてのCD4およびFOXP3:新規の離散ベイズ識別則を応用して). Yuki Nakagami, Shoichi Hazama, Nobuaki Suzuki, et al. BMC Cancer. 2022.
- 令和元年, 第57回日本癌治療学会学術集会最優秀演題賞
「Induction of tumor infiltrating T cells by a novel neoadjuvant vaccine: Analyzing PBMCs and surgical specimen (新規ネオアジュバントワクチンによる腫瘍浸潤T細胞の誘導: PBMCと切除標本の分析)」

がん人の研究



大腸がんの大腸研究

データ取得の方法を工夫し、データの価値を高め、 交通・製造・医療など、地域の課題解決に貢献したい。

データサイエンス学部 データサイエンス学科

坂東 幸浩 教授

BANDO H Yukihiko

博士(工学)



キーワード

#ビッグデータモデリング #映像圧縮 #グラフ信号処理

研究の概要

多様化・複雑化する社会課題の解決に向けて、現実世界で収集したデータを仮想空間で融合・分析し、現実世界へフィードバックすることで、より最適な解決策を導き出す仕組み(サイバーフィジカルシステム)への期待が高まっています。サイバーフィジカルシステムの利用が期待される応用先としては、例えば、街全体のエネルギー効率の最大化や渋滞解消を目指すスマートシティへの取組、工場の製造工程の異常を予測し、予防保全を目指す取組、多面的な人体の観測に基づき非侵襲で健康状態の把握を目指す医療情報処理などです。

提供できる知識やスキル

- 上記のサイバーフィジカルシステムを実現するためには、
- (i) 広範囲に及ぶ現実世界の観測対象に対して正確にセンシングすること
 - (ii) 取得されたデータから課題解決に繋がる価値ある情報を抽出すること
 - (iii) 分析結果を迅速に現実世界にフィードバックすることが必要となります。

サイバーフィジカルシステム実現に向けた要素技術として、

- 極力少数のセンサーで高精度にデータを獲得する技術
 - 取得されたデータから本質的な情報を抽出する技術
- について、取り組んでいます。

地域連携について

現実世界でのデータ取得は、実験室での検証とは異なり、たえず外乱にさらされます。せっかく取得したデータが雑音に乱されたため、所望の分析を行えない、というケースが良く発生します。そうした現実世界での取得データから雑音を除去しクリーンなデータを取り出したり、あるいは、雑音に乱されにくいデータ取得方法を工夫することを通して、取得されたデータに対する価値を高めるにより、地域の課題解決に貢献したいと考えています。

研究実績・講演テーマ

- 2024年 電子情報通信学会 業績賞
- 2017年 映像情報メディア学会 丹羽高柳業績賞
- 2015年 電気通信普及財団 テレコムシステム技術賞

IoT機器を用いたシステム開発や 情報系人材の育成にも尽力したい。

データサイエンス学部 データサイエンス学科

福田 龍樹 講師

FUKUDA Tatsuki

博士(工学)

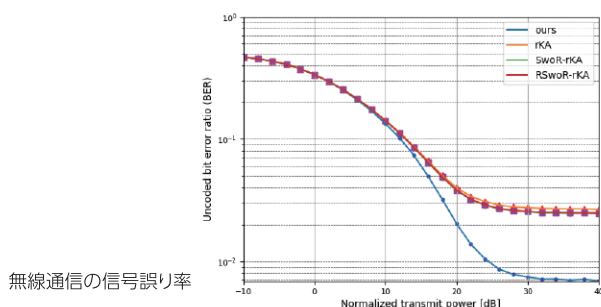


キーワード

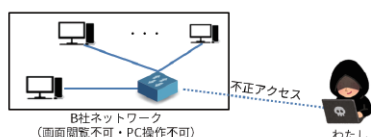
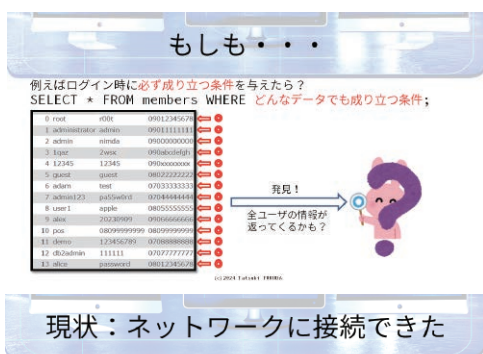
#シミュレーション #MIMO #セキュリティ教材開発

研究の概要

- 複数のアンテナを搭載した無線通信機器を対象として、送受信時の信号処理で雑音の影響を弱めて、高速大容量の無線通信を実現するための研究をしています。研究は送信するデータの生成、符号化、変調、送受信、信号検出、復号まですべてをコンピュータシミュレーションで行い、擬似的な送受信による信号の誤り率で性能評価を行っています。



- 情報セキュリティを学ぶための演習教材開発をしています。例えば、サーバシステムの脆弱性から不正アクセスにより情報を盗み出す、というシナリオを通して、セキュリティの重要性を学ぶ教材等を作っています。



(c)2024 Tatsuki FUKUDA

開発した教材

地域連携について

地域の企業の方とは、例えばIoT機器を用いたシステム開発等を一緒に行えるのではないかと思います。主にソフトウェア部分での協力となります。

また、情報系人材の育成にも尽力したいと思っています。北九州地区の中学校で「技術」の情報関係の単元での出前授業もしていた経験もございますので、行政・教育機関との連携ではそのあたりで何かご一緒できればと思っています。

提供できる知識やスキル

コンピュータを用いたシミュレーションを得意としているため、各種条件を変化させたときの影響をシミュレーション上で明らかにすることを得意としています。また、アルゴリズムの改善も研究対象の一つであるため、すでに存在する手法や手続きの改善、DX等に関しても協力できるかと思います。また、情報システムの構築等もできるため、システム開発、プロトタイプ製作、システム導入、システム運用まで、一連の流れの相談に乗ることができます。

研究実績・講演テーマ

- Tatsuki Fukuda, "Improvement of SwoR-rKA Precoding Method for Extremely Large-Scale MIMO With the Same Computational Complexity," International Journal of Communications, vol.8, pp.6-14, 2023.
- 福田 龍樹, "複数クラスにわたる同一科目の対面授業における遠隔配信ツールを用いた公平性担保," 工学教育, vol.71, no.4, pp.100-105, 2023.
- Keiichi Yonemura, et al., "Motivation and Educational Effectiveness in Teaching Expert Development Project by an Educational Community," Proceedings of 2024 IEEE Global Engineering Education Conference, pp.1-8, 2024.

大量の医療データを分析し、 診断や治療計画の支援、疾病の予防などに利用。

データサイエンス学部 データサイエンス学科

松浦 健二 講師

MATSUURA Kenji

博士(医学)



キーワード

アルツハイマー型認知症 # 因果推論

研究の概要

アルツハイマー型認知症の予防薬・治療薬の探索を研究テーマとしています。認知機能を評価するMMSE (Mini-Mental State Examination) スコアと患者の遺伝子発現データを用いて、認知機能低下に影響を与える遺伝子を特定し、それをターゲットにした薬の探索を行っています。データサイエンスの手法を活用することで、大量のデータから有用な情報を引き出し、因果関係を明らかにしています。この研究の目的は、認知症の進行を効果的に抑制し、患者の生活の質を向上させることです。研究成果を臨床応用に結びつけることで、実際に患者に恩恵をもたらす薬の開発を目指しています。

地域連携について

因果推論の専門知識を活かし、医療分野の企業や行政と連携して、地域医療の向上を目指します。因果推論は、原因と結果の関係を明らかにするための強力なツールです。これにより、データに基づいた根拠のある意思決定が可能となります。下記のような研究テーマを想定しています。

●医療の質向上

因果推論を用いて、患者の治療効果を最大化するための最適な治療法やケアプロトコルを提案します。

●予防医療の推進

認知症の予防プログラム(例:脳トレーニング、定期的な健康診断、特定のサプリメントの摂取など)が実際に発症リスクを低減させるかどうかを因果関係に基づいて評価します。これにより、どのような予防策が最も効果的であるかを科学的に検証することができます。

提供できる知識やスキル

データサイエンスの医療分野での応用は非常に多岐にわたります。これらの技術は、大量の医療データを分析し、診断や治療計画の支援、疾病の予防などに利用されます。これらの応用は、医療の精度と効率を向上させ、患者の治療アウトカムを改善するために役立ちます。提供可能なスキルとして下記のようなことを想定しています。

●因果推論を用いた治療薬・治療法の効果検証

傾向スコアマッチングや差分の差分法などを用いた効果検証を行います。

●機械学習モデルやニューラルネットワークを用いた分類と予測

過去の治療データを基に、治療の効果や副作用の予測を行います。

研究実績・講演テーマ

●Changes in the expression of prefoldin subunit 5 depending on synaptic plasticity in the mouse hippocampus.

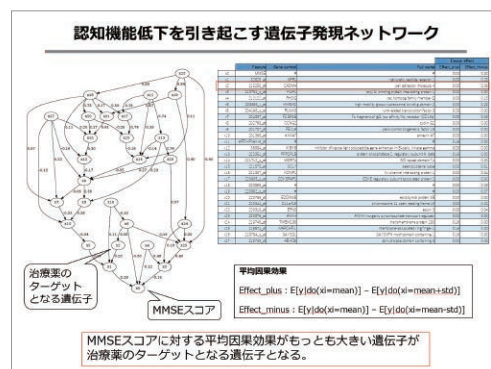
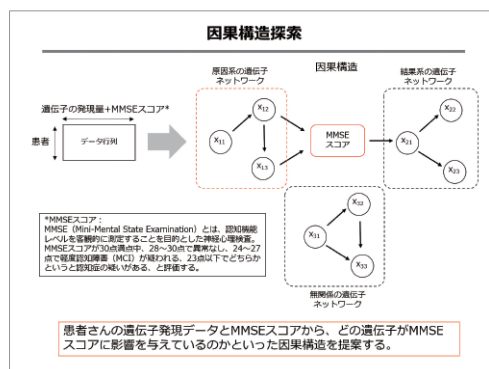
Neuroscience letters pp.134484 (2019).

●Proteomic analysis involved with synaptic plasticity improvement by GABAA receptor blockade in hippocampus of a mouse model of Alzheimer's disease.

Neuroscience Research pp.61-68 (2021).

●Proteomics analysis of the heart in normal aging mice.

Journal of Medical Investigation pp.217-223 (2022)



地域の経済や産業などの分析に提案モデルを適用、地域の課題を発見、課題解決に役立てたい。

データサイエンス学部 データサイエンス学科

藪内 賢之 教授 データサイエンス学部 副学部長

YABUUCHI Yoshiyuki

博士(工学)

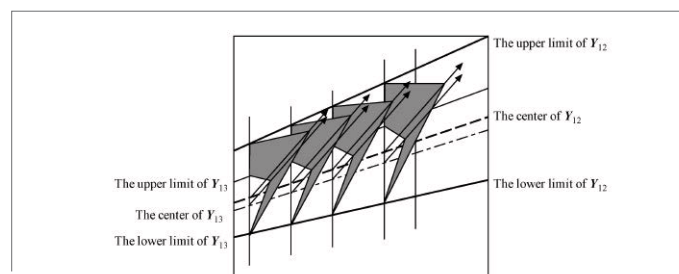
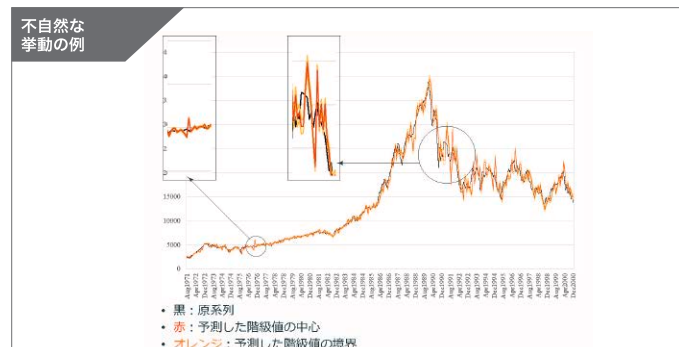


キーワード

ソフトコンピューティング # 多変量解析 # データ分析 # 技術経営

研究の概要

従来の計算技法とは異なり、日常的な問題解決に対応する人間の感覚に近い情報処理をソフトコンピューティングと呼びます。解析モデルである多変量解析は、統計モデルとして知られていますが、データによっては違和感のある解析結果が得られることがあります。私の研究は、多変量解析モデルにソフトコンピューティングの概念を適用して、違和感を取り除いた結果が得られる解析モデルを構築しています。



地域連携について

研究で構築した解析モデルは、実問題で活用できるところまで提案モデルの完成度は向上しました。これにより、人的要因や地域経済などの複雑な要因を扱えるようになりました。このため、地元地域の経済や産業などの分析に提案モデルを適用し、地域の課題を発見・解決に役立てられないか検討しています。

提供できる知識やスキル

これまで、提案する解析モデルを用いてソフトウェアに含まれるバグ数予測、ソフトウェア開発要員の特徴を加味したソフトウェア開発期間(ソフトウェア開発プロジェクトの運営効率)に与える要因分析などを行ってきました。これら研究では、一定の成果が得られました。地域経済や地域産業の現状分析や課題解決に役立てるのではないかと考えます。

研究実績・講演テーマ

- Yabuuchi, Y. and Watada, J.: Building Fuzzy Autocorrelation Model and Its Application to Analyzing Stock Price Time-Series Data. In: W. Pedrycz and S.-M. Chen (eds), Time Series Analysis, Modeling and Applications, pp.347-367, Springer-Verlag Berlin Heidelberg (2012)
- Yabuuchi, Y. and Watada, J.: Building Fuzzy Robust Regression Model Based on Granularity and Possibility Distribution. In: W. Pedrycz and S.-M. Chen (eds), Information Granularity, Big Data, and Computational Intelligence, pp.247-272, Springer-Verlag Berlin Heidelberg (2014)
- Yabuuchi, Y.: Construction of a Possibilistic Regression Model based on Possibility Grades with Vagueness. Scientiae Mathematicae Japonicae, 81 (3), 257-265 (2018)



画像認識に関する理論とソフトウェアの実装。 ソフトウェアの設計検証や生成AIのソフトウェア開発手法。



データサイエンス学部 データサイエンス学科

山根 智 特命教授

YAMANE Satoshi

博士(工学)

キーワード

#ソフトウェア検証 #機械学習 #時間オートマトン #モデル検査 #時相論理

研究の概要

- (1)物体検出などの画像認識に関する機械学習の理論とそのソフトウェアの実装。
- (2)ソフトウェアの設計検証および生成AIを用いたソフトウェア開発手法。

ChatGPTへのプロンプト（指示）：
バブルソートで、ソートされる様子を表示するPythonプログラムを作成しなさい

ChatGPTの出力

```
def bubble_sort(arr):
    n = len(arr)
    # リストの要素を全て確認するためにループ
    for i in range(n):
        # 最後のi個の要素はすでに整列されているため無視する
        for j in range(0, n-i-1):
            # 隣接する要素を比較して交換する
            if arr[j] > arr[j+1]:
                arr[j], arr[j+1] = arr[j+1], arr[j]
            # 交換操作後のリストの状態を表示
            print(f"Step {i * (n - 1) + j + 1}: {arr}")

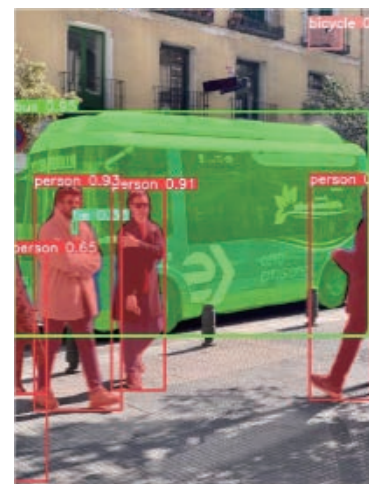
# サンプルのリスト
sample_list = [64, 34, 25, 12, 22, 11, 90]

# バブルソートを実行
print("Initial list:", sample_list)
bubble_sort(sample_list)

# 整列されたリストを表示
print("Sorted list is:", sample_list)
```

プログラム出力

```
Initial: [64, 34, 25, 12, 22, 11, 90]
Step 1: [34, 64, 25, 12, 22, 11, 90]
Step 2: [34, 25, 64, 12, 22, 11, 90]
Step 3: [34, 25, 12, 64, 22, 11, 90]
Step 4: [34, 25, 12, 22, 64, 11, 90]
Step 5: [34, 25, 12, 22, 11, 64, 90]
Step 7: [25, 34, 12, 22, 11, 64, 90]
Step 8: [25, 12, 34, 22, 11, 64, 90]
Step 9: [25, 12, 22, 34, 11, 64, 90]
Step 10: [25, 12, 22, 11, 34, 64, 90]
Step 13: [12, 25, 22, 11, 34, 64, 90]
Step 14: [12, 22, 25, 11, 34, 64, 90]
Step 15: [12, 22, 11, 25, 34, 64, 90]
Step 20: [12, 11, 22, 25, 34, 64, 90]
Step 25: [11, 12, 22, 25, 34, 64, 90]
Sorted: [11, 12, 22, 25, 34, 64, 90]
```



物体検出

参考資料 : <https://zenn.dev/dsLgunma/articles/d29b88713b5637>

地域連携について

- 機械学習により、様々なデータの分析や予測を行う。
- コンピュータビジョンにより、静止画や動画などの画像認識を行う。
- ロボットなどの組み込みソフトウェアの設計検証を行う。
- 生成AIを用いた様々な業務の効率化と自動化を行う。

提供できる知識やスキル

- ソフトウェア開発
- 人工知能の理論と技術
- コンパイラやオペレーティングシステムなどの基本ソフトウェアの理論と実装
- 生成AIを用いたプログラム開発

研究実績・講演テーマ

- 組み込みソフトウェアの自動検証の研究
科研基盤研究(C):割込みを持つ組み込みアセンブリプログラムのリアルタイム性のソフトウェアモデル検査(2021年4月ー2024年3月)
- 強化学習とGANの融合によるオフライン強化学習の研究
Shunya Kidera,, Satoshi Yamane, et-al.: Combined Constraint on Behavior Cloning and Discriminator in Offline Reinforcement Learning. IEEE Access 12: 19942-19951 (2024)

最適化問題、多変量解析、多目的最適化、映像解析、投資分析、人工知能、深層学習モデルなど、広い領域の研究。



データサイエンス学部 データサイエンス学科

和多田 淳三 特命教授

WATADA Junzo

博士(工学)

キーワード

#多変量解析のモデル構築 #分散分析によるFinTech技術の開発 #深層学習ニューラルネットワークの構築と最適化
#画像理解 #DNAコンピューティング(2016年まで) #経営工学 #金融工学

研究の概要

1983年に工学博士を取得後、1984年から米国Purdue Universityでポスドクトラルとして、NSFプロジェクト研究に参加し、地震後の建物の安全性評価モデルを構築しました。

帰国後、現在までに、

- (1)住友金属(株)と、人工知能の共同研究で自然言語モデルのJIS規格のコンサルティングシステムの構築(2年間)
 - (2)電通(株)と、ファジイ多変量解析によるデータ分析(1年間)
 - (3)日産ファイナンス(株)と、金融解析(1年間)
 - (4)富士通(株)と、システムソフトウェアの在留バグ数の予測(2年間)
 - (5)松下部品(株)と、労働作業の安全性の分析(1年間)
 - (6)富士投資顧問(株)と、投資モデルの構築(2年間)
 - (7)鴻池建設(株)と、建築作業の最適スケジュールの決定(1年間)
 - (8)コマツ(株)と、映像解析による車両周辺の安全性評価システムの構築(1年間)
 - (9)電力中研(株)と、研究の将来性の評価モデルの構築(4年間)
- 等の共同研究をしてきました。

競争的資金助成では、

- (A) 科研費Cを3回(分散分析モデルの構築)
(主査、合計10年間、合計約1千万円)助成
- (B) 経済産業省、感性情報による快適空間の実現
(メンバー、3年間、3千万円)助成
- (C) 北九州市FAICからDNAコンピューティング研究
(主査、7年間、約2千万円)助成
- (D) マレーシア、映像解析による鉱物探索における安全性の実現
(主査、3年間、20万RM(600万円))助成。
- (E) オムロン国際会議助成、(国際会議、2回、100万円)助成
- (F) 台湾・学術・文化交流促進費、(国際会議、3回、約1千万円)助成

地域連携について

どのような研究および実務でもお手伝いできます。

- (1) 基本的に、研究結果を論文または特許として公表したい。
- (2) 研究は、年単位で引き受けます。企業業務のように、短期間で成果を上げるとは、コンサルティングのみ引き受けます。
- (3) 研究費は年間500万円単位です。
- (4) 大学の管理が別途必要です。

特別な機器やソフトが必要な時はその借り受けまたは費用が別途必要です。

提供できる知識やスキル

広い領域の研究をしている。最適化問題、多変量解析、多目的最適化、映像解析(映像理解、対象の追跡、ドローンの自動操縦)、投資分析、人工知能、深層学習モデルの開発、等

研究実績・講演テーマ

- 2003年から2020年まで英語で、講義・研究指導を行ってきた。
- 現在Google Scholarで8400件の引用数です。退職までに1万件を達成することを目指している。
- 発表論文は、英字の論文で約1300論文、学術誌で約300論文、そのうちIEEE transに27論文、著書3冊、編集した書籍15冊(Springer等)、章への寄稿約150章。

ともに進む、
健やかな未来へ

Faculty of Nursing

看護学部

看護学科 (2025年4月開設)

ページ	所属	専門分野
41	中嶋 恵美子 ナカシマ エミコ	看護学科 看護学(基礎看護学・看護学教育・看護倫理)
42	石村 美由紀 イシムラ ミユキ	看護学科 看護学(母性看護学・生涯発達看護・生殖看護)・助産学
43	大谷 良子 オオタニ ヨシコ	看護学科 母性看護学・生殖看護
44	佐藤 亜紀 サトウ アキ	看護学科 急性期看護・ICT教育・発達障害傾向の看護学生への支援
45	塚原 ひとみ ツカハラ ヒトミ	看護学科 看護学(看護管理学・看護学教育・母性看護学)
46	濱田 裕子 ハマダ ユウコ	看護学科 小児看護学・家族看護学
47	古庄 夏香 フルショウ ナツカ	看護学科 基礎看護学・看護技術・透析看護

7SEEDS

高齢者が社会の担い手として活躍する地域づくり、 高齢者の社会的孤独・孤立防止に関して、 看護基礎教育・卒後教育に関してなど。



看護学部 看護学科

中嶋 恵美子 特命教授 看護学部長

NAKASHIMA Emiko

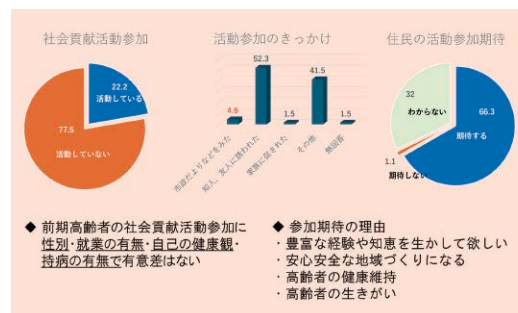
博士(医学)

キーワード

高齢者の社会貢献 # 高齢者の社会的自立 # 看護職者育成

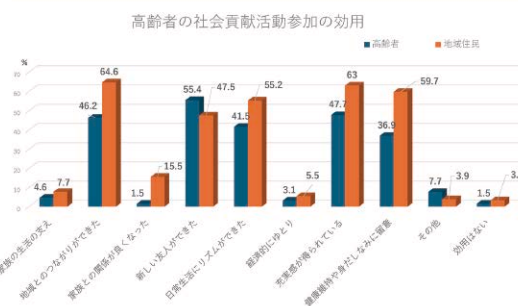
研究の概要

高齢者が社会の担い手として活躍する地域づくりのために高齢者の社会貢献に関する研究をしています。地方都市の前期高齢者の社会貢献活動の実態と生産年齢層住民の認識を調査しました。社会貢献活動をしている高齢者は22.2%で、活動の有無と性別・就業・健康観に有意差はなく、生産年齢層の人々が高齢者に期待する活動への高齢者の参加は有意に少ない結果でした。高齢者が「社会の新たな担い手」として活躍するには、社会貢献活動への参加の「きっかけ」づくりと「学び続ける姿勢」と「学べる場」を整える必要があります。今後は高齢者が活躍できる環境を整えると同時に、高齢者の社会的孤独・孤立の防止についても研究をしています。



地域連携について

地域において高齢者の知識と経験と技能等を活用することは、高齢者の社会的自立や社会的交流を高め、「自分も役立つ」という自尊感情を維持し、高齢者の心の健康増進にもつながります。また 高齢者同士の横のつながりとともに、世代間の縦のつながりも生まれ、高齢者理解が進み、『自助・互助・共助』の地域づくりに役立ちます。しかし、高齢者の社会貢献活動等への参加が少ない現状では、地域や生活の課題に向けた高齢者の学習ニーズの把握や学習活動の組織化が必要であり、新たな学習方法や学習プログラムの開発が求められます。



提供できる知識やスキル

- 臨地実習指導に関する講義（指導計画の作成・評価）
- 新卒看護師の育成や臨床教育力向上に関する支援
- 看護倫理に関する講義や検討会支援
- 保育士や教諭（養護教諭含む）を対象とした医療的ケア技術（喀痰吸引、経管栄養、導尿、人工呼吸器管理など）支援

研究実績・講演テーマ

【研究実績】

- 大学新入生のBMIと生活習慣との関連分析
- 発達障害傾向のある看護学生への現任教育まで含めた適応支援ガイドラインの作成
- 卒後1年目看護師の定着率向上を目的とした広域包括支援プログラムの開発研究

【講演テーマ】

- 参加型実習指導／臨床教育力の向上
- 新卒看護師の育成
- 看護倫理／ケアリング
- 発達障害傾向のある看護師への支援



A portrait of Dr. Yoko Kato, a woman with short brown hair, smiling. She is wearing a dark blazer over a black top. The background is a light-colored wall with vertical stripes.

学士(看護学)・修士(人間関係学)

#不妊支援 #助産学 #妊婦教育 #性教育

子ども達の生きる力を高めていきたい。また、医療機関、行政等と連携し、充実したケアを進めたい。

看護学部 看護学科

大谷 良子 准教授

OOTANI Yoshiko

博士(看護学)



キーワード #不妊 #生殖看護 #出産体験

研究の概要

不妊に悩む方や不妊治療中の方、さらにその後の妊娠・出産・育児期にある女性やそのパートナーに対する支援について研究しています。さらに女性のライフサイクルのなかで、その女性がいつか妊娠や出産を望んだ時に理想的なステージに立てるように、個々の成長・発達とともに性に関する健康について考えていけるように、男女ともに10代のうちからのアプローチを考えています。

地域連携について

各教育機関(小・中・高)の学校に赴いて、ライフサイクルのこれまでを振り返り、生徒の皆さんの発達状況に合わせた性の健康やこれからを一緒に考えていくことで学校教育に求められている生徒さん一人一人の生きる力を高めていきたいと思えます。また、不妊や不妊治療に関連した医療機関、行政、サポート施設等と連携し、当事者への充実したケアを進めていきたいと考えています。



提供できる知識やスキル

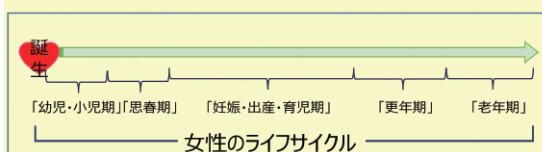
あらゆる年代の男女問わず、性の健康や不妊支援に関する情報や支援のあり方について提供することができます。

研究実績・講演テーマ

- 体外受精後妊娠した女性の妊娠・出産体験のとらえ方に関する研究
- 不妊治療後出産した女性の出産体験
- 不妊治療中のカップルの「心理的なずれ」の解消に向けた介入研究

ライフサイクルとは？

誕生してから亡くなるまでの心と体の成長や変化の段階をとまなう過程



「いきること おとなになること」

★自分のこれからを考えてみましょう。自分の人生をどのように過ごしたいですか？

- ・進学をする(いつ?どこに?) しない
- ・仕事をする しない
- ・結婚をする(パートナーを持つ) しない(持たない)
- ・子どもを持つ 持たない
- ・仕事をやめる 再開する
- ・その他



大人になること

出会い

誕生

$$\frac{1}{700万} \times \frac{1}{4億} \times \frac{3}{4} \times \frac{2}{3} = \text{奇跡的な確率}$$



約0.1mm

新生児



身長: 約50cm
体重: 約3000g

高校生



身長: 約150~170cm
体重: 約 ? Kg

教育に関するe-ラーニングコンテンツの作成や、発達障害傾向にある看護学生、看護師の支援。



看護学部 看護学科

佐藤 亜紀 准教授

SATO Aki

修士(文学)

キーワード

#看護教育 #看護OSCE #発達障害傾向にある学生の支援

研究の概要

大きくは2つです。①e-ラーニングなどのICTを用いた看護学教育、②発達障害傾向にある看護学生への教育的支援についてです。①では教員がそれぞれ設定する学習ゴールに役立てられるように、企業との産学共同で著作権フリー、カスタマイズ可能なe-ラーニングコンテンツを作成しました。②は共同研究により発達障害傾向にある看護学生への支援ガイドラインを作成しました。

地域連携について

対面教育を充実させるためにICTの教育への活用は必須です。地域の企業とともに、学習効果の高いe-ラーニングコンテンツの作成ができると嬉しいです。また、発達障害傾向にある看護学生や看護師の支援について、地域の医療機関と協働研究を通して具体的な支援システムが構築できれば、人材不足に対する対策や離職防止の一助になると考えます。

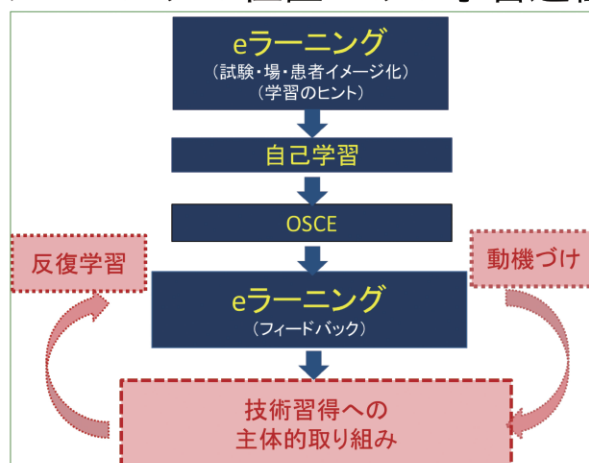
提供できる知識やスキル

- 教育に関するe-ラーニングコンテンツの作成
- 発達障害傾向にある看護学生、看護師の支援に関する講義
- 臨地実習における「深い学習」を促す指導に関する講義

研究実績・講演テーマ

- 科学研究費補助金(若手B) 研究代表「自傷行為におよぶ患者の救急医療に関する研究」
- 科学研究費補助金(基盤C) 研究代表「ブレンド型学習による看護学の「より深い学習」のICEモデルアプローチ」
- 科学研究費補助金(基盤研究B) 研究分担者「看護系大学における発達障害傾向学生に対するサポート・スペクトラム構築に関する研究」

eラーニングの位置づけと学習過程



妊産婦・女性、中学生・高校生への禁煙支援や地域の看護力・子育て力向上支援。



看護学部 看護学科

塚原 ひとみ 特命教授

TSUKAHARA Hitomi

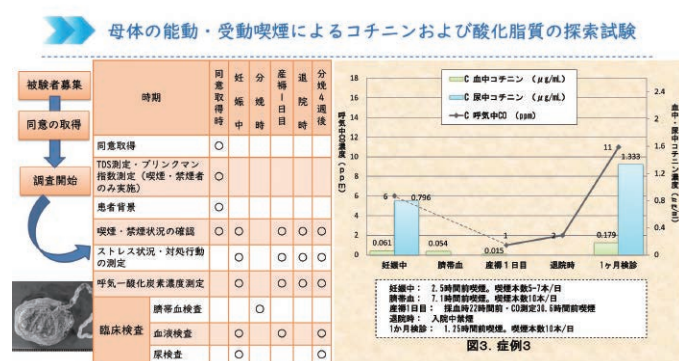
博士(医学)

キーワード #妊産婦 #禁煙支援 #看護師人材育成

研究の概要

2024年の出生数は70万人を割り込むと予測され、次世代が生まれ育つための支援は重要な取り組みです。妊産婦の禁煙補助薬の使用は禁忌であることから、次世代を健全に育むために、20～30歳代の女性への禁煙支援の在り方を。妊産婦自身が禁煙しようという意志をもって禁煙に取り組むための探索研究に取り組んでいます。

- 能動・受動喫煙に伴う妊娠期から一か月検診までの母体血中、尿中、臍帯血中のコチニン濃度と呼気中CO濃度、分娩状況、新生児状況との関連の探索研究
- 妊産婦が喫煙継続・禁煙行動を決定する心理過程と決定に影響する因子に関する探索研究



地域連携について

下関市の高齢化率は36.6%（令和6年）であり、地域の看護の質的・量的需要度は高く、住み慣れた地域で自分らしく人生の最期まで過ごすことができる地域包括システムを担う人材を育成したいと考えています。そのためには、地元就職定着率向上に向けた大学と臨地施設が連携協働する切れ目のない看護師人材育成を実現するシステムを企業や行政とともに構築していきたいと考えています。都市部や大病院に集中する看護師就職の動向に変化をもたらし、看護ニーズが高い地域・在宅看護領域への新卒看護師の就職を推進し、大学と臨地との連携により、地域の魅力ある職場創出を目指しています。

提供できる知識やスキル

- 「初産婦夫婦を対象とした親準備教育」育児期をイメージし、夫婦で一緒に我が家流の育児について考える
- 妊産婦・夫を支援する祖父母を対象とした子育て支援
- 地域の看護力向上の支援
- 中学生・高校生からの禁煙支援教育
- 看護職の職場内教育企画力に関する支援



研究実績・講演テーマ

- A Randomized Controlled Open Comparative Trial of Varenicline Versus Nicotine Patch in Adult Smokers: Efficacy, Safety and Withdrawal symptoms (The VN-SEESAW Study)
- 可視化したバイオマーカー指標を用いた喫煙妊産婦への禁煙支援に関する研究
- 発達障害傾向にある看護学生の適応・学習支援に関する研究

子どもに重い病気や障がいがあっても いのち輝く社会のために。

看護学部 看護学科

濱田 裕子 教授

HAMADA Yuko

博士(看護学)



キーワード

#小児緩和ケア #グリーフケア #ビリーブメントケア #子どもホスピス
#ビジュアル・ナラティブ #人材育成

研究の概要

これまでお子さんを亡くしたご家族のグリーフ(悲嘆)やグリーフケアに関するアクションリサーチを行い、インタビューにご協力いただいた24組のご家族とともに「空にかかるはしご〜天使になった子どもと生きるグリーフサポートブック〜」を刊行しました。また、ご遺族を対象にビジュアル・ナラティブ法を用いて、お子さんとの過去・現在、未来を描画にいただき、親御さんとお子さんとの関係性の変化について研究しています。さらに、研究と実践を連環させ、グリーフの会(集う場)を開催し、グリーフサポートも行っています。現在は、グリーフケアに関わる人材育成プログラムの開発をテーマに研究しています。



グリーフに関わる人材育成研修会の様子

地域連携について

グリーフの研究と実践を行う中で、感じるのは大切な人を亡くした方(特にお子さんを亡くした家族)への社会的理解が不足しているということです。個別にグリーフサポートを行っているケースがありますが、親御さんだけではなく、遺されたきょうだい児が社会や大人からの言動に傷つき、孤立する場合があります。社会全体が、グリーフに関する理解を深めることが必要と考え、教育・啓発活動、講演等を行っています。また、グリーフケアは小児緩和(小児ホスピス)ケアの一部ですので、小児緩和ケアや子どもホスピスについても沢山の方に知っていただきたく講演等を行っています。

提供できる知識やスキル

私は研究を実践に還元すべく、教育・研究・実践を連環させ、NPO法人福岡子どもホスピスプロジェクトを設立し、福岡に子どもホスピスを創るために活動しています。前述の遺族支援や、重い病気や障がいのあるお子さんとそのご家族の伴走者として相談支援や限られた命を生きるお子さんやご家族の夢を叶える活動もしています。身近にそのようなお子さんやご家族がいらっしゃれば、お気軽につなげていただければ幸いです。



研究実績・講演テーマ

- 日本学術振興会科学研究費「子どもを亡くした家族のグリーフケアと人材育成プログラムの開発」研究代表者2022～2025年度 基盤(C):22K10944
 - 厚生労働科学研究費 がん対策推進総合研究事業 小児がん患者在宅移行の円滑化促進と在宅療養における課題とニーズ把握のための研究 分担研究「治癒困難な小児がんの子どもと家族の在宅療養における心理社会的課題の認識に関する横断研究」令和5年度～令和7年度
 - 日本新生児看護学会 学術優秀賞「新生児医療施設で子どもを亡くした母親の悲嘆に関する体験」2022年2月
 - 日本家族看護学会 グッドプラクティス賞最優秀賞「子どもを亡くした家族のグリーフ支援」2023年9月
- 【講演テーマ】
- 喪失とグリーフについて
 - 小児緩和ケアについて
 - 小児ホスピスの現状と課題

口腔ケアに関する指導や啓発を行い 全身の健康状態・健康寿命の向上を目指したい。

看護学部 看護学科

古庄 夏香 准教授

FURUSHO Natsuka

修士(看護学)



キーワード

看護技術 # 透析看護 # 看護教育

研究の概要

看護技術や透析看護に関する研究をしています。

現在は看護技術の口腔ケア技術に注目し、透析患者さんの口腔乾燥改善のための口腔ケアプログラムの開発を行っています。

口腔ケアは口腔内の清潔だけではなく、全身の健康増進や生活の質(QOL)の向上、がん、認知症などに効果があることが分かってきました。透析患者さんは、様々な制限や治療、身体的症状により唾液分泌量が低下し、歯周病やう蝕(虫歯)の罹患率が高い状況ですが、透析の影響で歯科受診をし辛い状況にあり、口腔内の環境やQOLは低下しています。そのため、口腔ケアを行い、口腔乾燥改善だけではなく、将来的にはQOLを向上させるための研究を進めています。

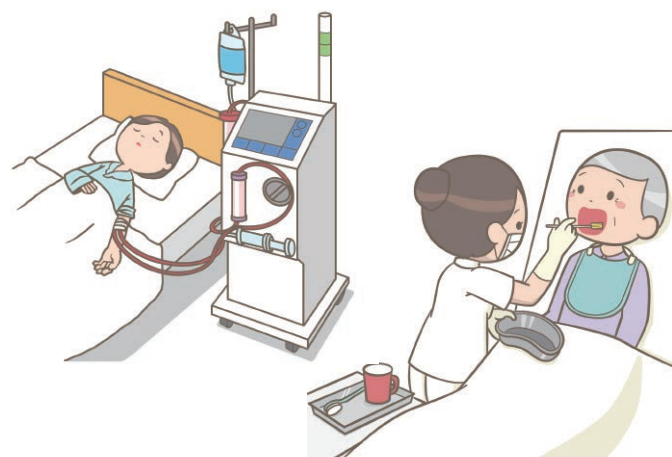
地域連携について

オーラルフレイルは、口のフレイル(虚弱)という意味で口の機能低下に注目した概念で今、注目されています。徐々に口の機能の低下が進行し、食べ物の選択肢が狭まり栄養に偏りが生じることで心身機能の低下にもつながると考えられています。オーラルフレイルの人はそうでない人と比べ、2年以内に身体的フレイルを発症する確率が2.4倍、4年以内に死亡するリスクは約2倍ということがわかってきました。

地域の企業や行政をはじめ、病院や施設の方と、患者さん、利用者さん、地域住民の方へ口腔ケアや口腔ケアに関する指導や啓発を行い、口腔内だけでなく全身の健康状態・健康寿命の向上を目指したいと考えています。

提供できる知識やスキル

- 全身や口腔の健康に関する教育
- 口腔ケアの指導、健康指導
- 唾液量の測定、口腔粘膜水分量測定、口腔細菌の測定、主観的口腔乾燥の測定



研究実績・講演テーマ

- 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究課題「血液透析患者の唾液分泌促進を目指した患者参加型口腔ケアプログラムの開発」(研究課題番号:24K13657) 令和6年~令和9年 研究代表(交付額4,420,000円)
- 古庄夏香, 松本智晴, 栗野秀慈, 岩崎正則, 前田ひとみ(2024): 血液透析患者の口腔乾燥改善を目的とした口腔ケアプログラムの開発・評価—混合研究法による評価, 日本慢性看護学会誌, 第18巻. doi: 10.34523/jscicn.202418002
- Masanori Iwasaki, Yuko Ohta, Natsuka Furusho, Satoko Kakuta, Kosuke Muraoka, Toshihiro Ansai, Shuji Awano, Masayo Fukuhara, Hidetoshi Nakamura(2024): Association between oral frailty and nutritional status among hemodialysis patients aged ≥50 years, Geriatrics&Gerontology International. doi: 10.1111/ggi.14947

視野を広げ、学びの意義を知る

Organization for Liberal Arts Education

教養教職機構

ページ	所属	専門分野
49 上野 恵美 ウエノ メグミ	教養教職機構	キャリア教育(若年層のキャリア形成)・インターンシップ
50 太田 麻美子 オオタ マミコ	教養教職機構	教育経済・金融教育・乳幼児教育
51 加藤 秀男 カトウ ヒデオ	教養教職機構	ヘルス&ソーシャルケア(心理学分野)・英語教授法
52 金 珉智 キム ミンジ	教養教職機構	社会医学・特別支援教育・医学統計学・リハビリテーション医学
53 趙 彩尹 ジョ チュエン	教養教職機構	教育経済学・医療経済学・障害科学・リハビリテーション医学

メリットが生まれるインターンシップとして、 企業全体で取り組む仕組みを支援。

教養教職機構

上野 恵美 准教授 附属リカレント教育センター長

UENO Megumi

修士(経済学)



キーワード

キャリア教育 # インターンシップ

研究の概要

- 大学等におけるインターンシップ実践者たちのパーソナリティと能力
- 長期インターンシップを経験した社会人の職場定着要因の実証分析

現在は、インターンシップを中心に研究していますが、若年層のキャリア形成支援、リカレント教育・リスクリングなどに問題意識を持っています。

地域連携について

中小企業において、インターンシップを実施することは手間暇がかかります。しかし、各種データにおいても、学生の受け入れをすることで、社内の人材育成や新しいアイデアの発見など、大きなメリットが生まれるという結果が出ています。インターンシップに対して経営層をはじめとする社員全員が本気で関わる仕組みを支援することで、若年者の採用に繋げていきたいと考えています。

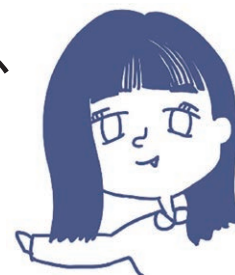
提供できる知識やスキル

- インターンシップの導入支援
- 新規卒者向けの効果的な採用広報活動支援

研究実績・講演テーマ

- 上野恵美; 趙彩尹. コロナ禍前後における「エントリーシート」の質的变化—質問項目の分析を中心に—. Journal of Inclusive Education, 2022, 11: 83-93.
- 上野恵美. 日本における「キャリア教育」の現状分析～キャリア教育モデルの構築に向けて～. (2023)
- 上野恵美. 大学教育を変える, 未来を拓くインターンシップⅡ (第9回) ルーティンワークを脱しインターンシップに魂を込める. 文部科学教育通信, 2020, 491: 32-35.
- 文部科学省 令和5年度大学等における学生のキャリア形成支援活動表彰 選考委員会委員
- 日本学生支援機構 令和6年度 全国キャリア教育・就職ガイダンス パネルディスカッション パネリスト
- 日本学生支援機構 令和6年度 インターンシップ専門人材セミナー 基礎編 ファシリテーター

地域の保育園、小・中学校、企業等と連携、データを収集、「学びの見える化」に貢献。



教養教職機構・大学院経済学研究科・特別支援教育特別専攻科

太田 麻美子 准教授

OHTA Mamiko

修士(教育修第804号)

キーワード

教育経済学 # 乳幼児教育 # インクルーシブ教育 # ダイバーシティ教育

研究の概要

地域の保育園や県外の小・中学校や企業と連携し、横断・縦断データの収集を行なっています。また、介入で得られたデータを用いて統計的分析を行うことで、より効果的な介入プログラムを特定します。

現在、主で行っている研究は「乳幼児を対象とした数概念プログラムの開発と統計的効果検証(研究課題:22K02442)」です。詳しくはKAKENのホームページをご覧ください。

提供できる知識やスキル

- 子どもを対象とした指導・支援の検討
継続的にプログラム介入及びデータ収集を行うことで、より効果的な指導・支援に関する情報を提供することが可能です。
- 金融教育に関するプログラム開発
現在、共同研究において小中高生を対象としたオンラインマネースクールのプログラム開発を行っています。経営戦略やマーケット戦略等についても教育学的側面と経済学的側面を踏まえ、助言等を行っています。
- 諸外国の乳幼児教育に関する情報提供
諸外国の乳幼児教育に関する制度政策、実践事例等に関する最新情報を提供することが出来ます。

地域連携について

- ケース会議等を含む子ども支援についての情報提供
 - 教育的介入に関するプログラム開発
- 地域の保育園や小・中学校、企業等と連携し、「学びの見える化」に関する支援等について力添え出来ればと考えています。

研究実績・講演テーマ

- 三輪 正太郎, 金城 紅杏, 太田 麻美子, 教育現場における金融教育実践の現状と課題, 教育経済学研究, 5:1-22, 2024.
- Mamiko OTA, Eonji KIM, Mitsuyo SHIMOJO, Haejin KWON, Changwan HAN, The Verification of the Reliability and Construct Validity of the Disability Awareness Program (DAP) scale: Asian Journal of Human Services, 21:42-51, 2021. (scopus citescore=0.3)
- Takashi OKADA, Naomi OKADA and Mamiko OTA, Effects of "Parental Involvement" on Infants Delay in Eating and Speaking Functions, Asian Journal of Human Services, 23:43-55, 2022, (scopus citescore=0.3)

児童・生徒・学生・会社など、仲間同士の ピア・サポートや、英語習熟プログラムの研究。



教養教職機構

加藤 秀男 准教授

KATO Hideo

博士(心理学)

キーワード

#ピア・サポート #英語教授法 #スピーキング

研究の概要

2つの分野で研究をしています。

●心理学の立場からのピア・サポート研究

児童・生徒・学生・会社の同僚など、同じ立場の仲間同士のサポート活動が想像以上の効果をもたらすことが確認されており、現在はピア・サポート活動を、学校や職場での活動にどのように効果的に取り入れることができるか研究しています。



●英語教授法に関連する英語習熟プログラムの研究

中学卒業までに習う英文法を理解できる大学生や大人はたくさんおられますが、その文法力をスピーキングに活用できていない方が非常に多くいらっしゃいます。文法は知っているのに、スピーキングが上達しない理由や原因を分析して、流暢にスピーキングできるためのプログラムを研究しています。



地域連携について

下関市は、素晴らしい名所や他県にはない歴史的イベントや事象が多くありますので、観光客が集まるようなイベント開催に協力したいと思っています。例えば、地域活性イベントとして、『名所を巡り』+『クイズコーナー』を交えながらの婚活イベントは魅力的だと感じております。

提供できる知識やスキル

●ピア・サポート

職場・オフィス内・工場内など、チームや同僚内での一部の業務や作業などに、ピア・サポートの理論を応用することは可能です。

●英語教授法

今後大幅に外国人の就労者が増えることが想定され、職場での英語でのコミュニケーションの機会が増えるのは必然です。その意味で、コツを抑えながら短時間で効果的にスピーキング力を上げるワークショップ(セッション)等の開催は可能です。

研究実績・講演テーマ

- The Impact of the Peer Support Programme on Interpersonal Relationship, Self-Esteem, General Health Questionnaire and Adaptation Scale for School Environments on Six Spheres among Japanese High School Pupils. European Journal of Psychology and Educational Research, 7 (1), 1-10.
- 『子どもと大人のための臨床心理学』共著(分担)北大路書房 2011年(第2章第3節1)
- 『学校教育相談の理論・実践事例集 いじめの解明』共著(分担) 第一法規2022年

社会的交流によるアルツハイマー病高齢者の言語概念化への影響とコミュニケーションの可能性。

教養教職機構・大学院経済学研究科・特別支援教育特別専攻科

金 珉智 准教授

KIM Minji

博士(医学)



キーワード

地域高齢者 # 認知機能 # 余暇活動 # 身体活動 # 障がい者

研究の概要

今までコミュニケーションを含めた社会的交流や身体活動が地域高齢者の認知機能に保護的に働くことを研究により明らかにしてきましたが(図1、2)、実際にどのようなメカニズムにより社会的交流がアルツハイマー病を持つ高齢者の認知機能障害や言語障害に影響を与えているかについてはいまだ明らかにされていません。アルツハイマー病を持つ高齢者の脳内の白質が子どもの未熟な脳の状態と同じ兆候を示していることが報告されており、3～5歳児を対象に社会的交流がどのように認知機能に影響を与え、言語概念を形成していくかを研究しています。加えて、障害児の心理・生理・病理に関する研究など特別支援教育に関する研究も行っています。

地域連携について

加齢による認知機能の低下を防ぐことができないように、アルツハイマー病の進行を止めることは今のところ難しい状況です。アルツハイマー病の中核症状の一つである言語障害は、介護者や家族に対して患者本人の意思や状態を見極めることに限界をもたらします。可能であれば地域と一緒に施設介護や在宅介護で簡単にできるコミュニケーションツールを開発したいと思っています。

提供できる知識やスキル

- 地域高齢者の認知症スクリーニング検査の実施及び運営の経験があります。
- 1万人以上の地域高齢者の健診データを統計的に分析し、認知的余暇活動と認知機能との関連を検討しました。
- テキストを計量的に分析し、統計ソフト(SPSS)を用いてデータを分析することができます。

研究実績・講演テーマ

- Kim MJ, Han CW, Min KY, Cho CY, Lee CW, Ogawa Y, Etsuro M, Kohzuki M (2016) Physical exercise with multi-component cognitive intervention for older adults with Alzheimer's disease: A 6-month randomized controlled trial. *Dementia & Geriatric Cognitive Disorders Extra*, 6, pp.222-232.
- Kim MJ, Tsutsumimoto K, Doi T, Nakakubo S, Kurita S, Makizako H, Shimada H (2020) Relationships between cognitive leisure activities and cognitive function in older adults with depressive symptoms: a cross-sectional study. *BMJ Open*, 10(2), e032679.
- Kim MJ (2023) Characteristics of the Educational Status of Special Education Schools for the Physically Disabled in South Korea; Through Text Mining Analyses of School Goals and School Evaluations. *Asian Journal of Human Services*, 25, pp.157-176.

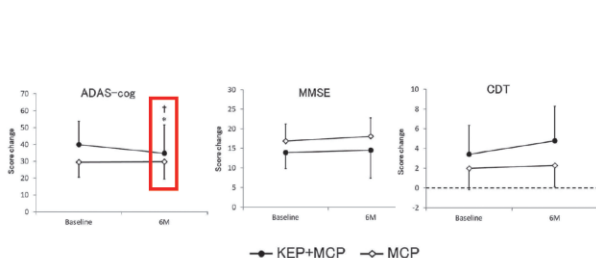


図1. 【研究実績①】認知症高齢者に対する身体活動による認知機能の比較
(介入前 対 介入後の比較、↑2群間の比較)
出典: Kim MJ, et al., 2016

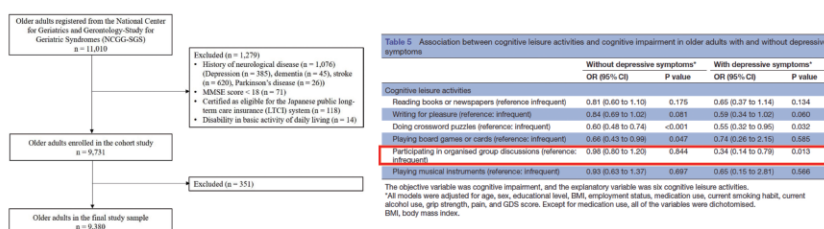


図2. 【研究実績②】1万人の地域高齢者研究の抽出結果と
うつ症状と認知機能低下を両方持つ地域高齢者に対する認知的余暇活動の影響
出典: Kim MJ, et al., 2020

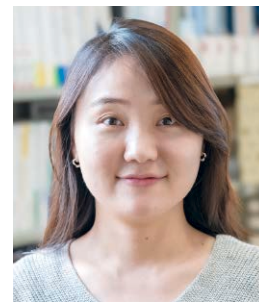
地域高齢者のフレイル予防に関する研究と 障害児の医療的ケアに関する研究。

教養教職機構・大学院経済学研究科・特別支援教育特別専攻科

趙 彩尹 准教授

CHO Chaeyoon

博士(医博(障))



キーワード

障害児・者 # 高齢者 # 健康関連生活の質(HRQOL) # 医療経済 # リハビリテーション医学

研究の概要

地域高齢者のフレイル予防に関する研究と障害児の医療的ケアに関する研究を行っています。近年、75歳以上の高齢者は様々な健康障害や要介護状態の増加に伴い、医療費と介護給付費の高騰を招いていることが知られているため、教育経済・医療経済学の側面で、フレイル予防に対する身体活動と教育を合わせた介護予防プログラムの考案・効果検証する研究をしています。また、医療的ケアを要する障害児の医療的支援および経済的支援制度について研究しています。

提供できる知識やスキル

- 高齢者の身体的健康並びに精神的健康を維持・改善するプログラムの考案・実施し、大学、医療機関、地域施設との協力した経験があり、プログラムの介入に必要な仕組みやマネジメントに関する知識を提供できます。
- 地域または企業からのビッグデータデータの処理、分析ソフトを用いた分析方法や解析スキルを提供できます。

地域連携について

- 地域高齢者における介護予防プログラムの支援
日本は、超高齢社会に導入している国であり、地域ごとにも75歳以上の高齢者数が益々増加しています。その中で、高齢者の健康維持や健康促進させることは大事なことであり、地域の医療機関との連携においても重要な事項であると考えます。この中で、地域と連携し、地域居住高齢者を対象とした介護予防プログラムを実施することで、今後の介護予防に対する包括的・継続的なマネジメントを構築できることを期待しています。

研究実績・講演テーマ

- CHO C, LEE C, KOHZUKI M. Lower-limb Aerobic Exercises Improve Physical Function in Frail Older Adults; A Randomized Controlled Pilot Trial. Asian J Human Services.23;90-99. 2023.
- 趙 彩尹, 小原 愛子, 照屋 晴奈. 医療的ケアを必要とする子どもの医療負担の経済的支援制度及び学校教育に関する課題。ーインクルーシブ教育システム構築に向けた課題の一考察ー. 2022.
- 書籍: 共著) 心臓リハビリテーショングリーンノート. 中外医学社. 2021

URA室

University Research Administrator

室長挨拶

平素より、下関市立大学の教育研究活動に多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。本学では、学内の研究活動を支援し、研究成果を地域・社会へ還元することを目的として、2023年4月にURA室を設置しました。

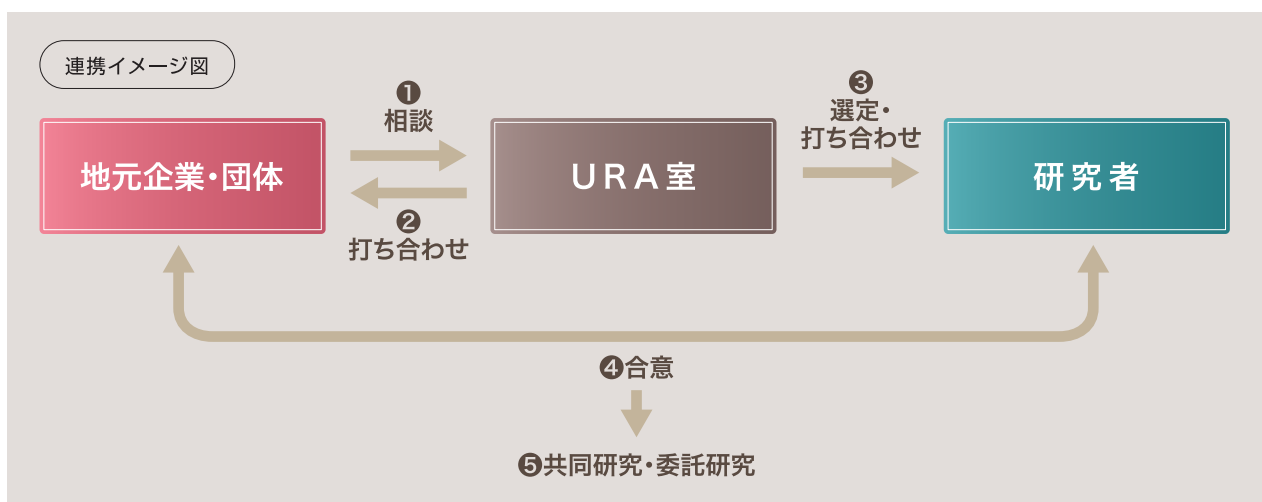
URA (University Research Administrator) とは、研究活動の企画・マネジメント、研究資金の情報収集・獲得支援等に従事して、学内の研究活動を支援する人材です。下関市立大学URA室では、地域の企業・自治体等の皆様のニーズと、学内の研究シーズとのマッチングを図り、戦略立案や課題解決に貢献していく所存です。URA室の活動へのご協力、ご理解を賜り、活用をご検討いただきますようお願い申し上げます。



URA室長
杉浦 勝章 副学長(研究)
SUGIURA Katsuaki



[URA室]
写真左から
松浦 健二講師、金城 紅杏助手、
劉 雪琴助教、三輪 正太郎助手



お問い合わせ先

下関市立大学研究機構 URA室

TEL : 083-252-0288 / FAX : 083-252-8099 / E-mail : uraoffice@Shimonoseki-cu.ac.jp

教員について詳しくは、
本学公式ホームページ「教員情報(学位及び業績)」をご覧ください。

https://www.shimonoseki-cu.ac.jp/gakubu/kyoin_page



ACCESS INFORMATION



JR下関駅から

- サンデnbバス3番のりば(約20分乗車)、「山の田」バス停下車徒歩4分、「大学町二丁目」バス停下車徒歩2分
- サンデnbバス5番のりば(約20分乗車)、「山の田」バス停下車徒歩4分

JR幡生駅から

- 徒歩約20分

JR新下関駅(新幹線・東口)から

- サンデnbバス1番のりば(約15分乗車)、「川中豊町線」に乗り、「大学町二丁目」バス停下車徒歩2分
- タクシー利用の場合約10分



〒751-8510 山口県下関市大学町二丁目1番1号
Tel.083-252-0288 Fax.083-252-8099
<https://www.shimonoseki-cu.ac.jp/>